

### Ⅲ 府出身者の集計・分析

---



## 1. 就業と地域選択

### (1) 就業地域の希望

府出身者が就職の際にどのくらい地元・地元外への就職を希望しているかを把握するため、初めて就業する地域（地元か地元外）についての希望を尋ねた。

府出身者全体では、「地元で働きたかった」が26%と最も多い。一方で、「地元外で働きたかった」「どちらかと言えば、地元外で働きたかった」の回答は合わせて27%あり、地元外を希望する割合が1/4以上を占めている。（図3.1.1）

次に男女別にみると「地元で働きたかった」が男性は25%、女性は26%、「どちらかと言えば地元で働きたかった」が男性は26%、女性は23%と男性の方が地元で働きたいという希望が女性よりも多くなっている（図3.1.2）。

図3.1.1 卒業後、初めて就業する地域についての希望（地元・地元外）（単数）

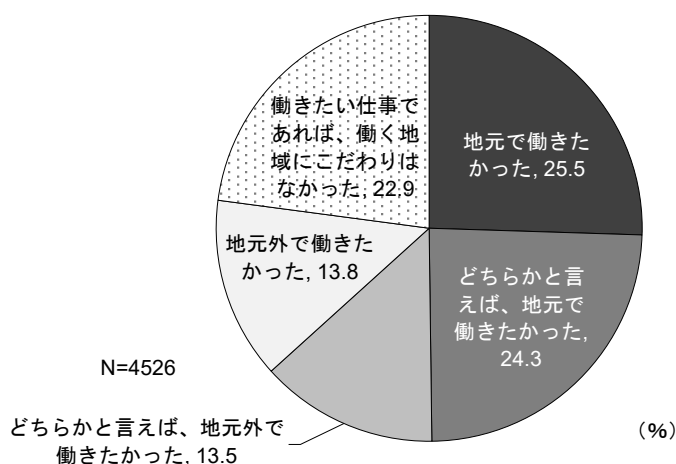
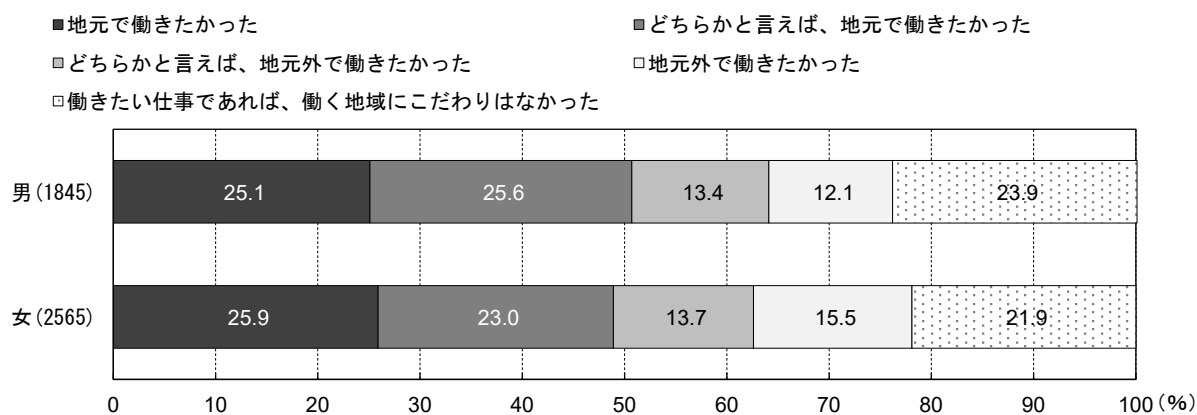


図3.1.2 卒業後、初めて就業する地域についての希望（地元・地元外）（男女別）



また、初めて就業する地域を、府内・府外で希望を尋ねると、府出身者全体では「府内で働きたかった」が30%で最も多く、「どちらかと言えば、府内で働きたかった」と合わせると57%の府出身者が府内で働きたいと回答している。(図3.1.3)

次に男女別にみると「府内で働きたかった」と回答した男性は27%、女性は34%、「どちらかと言えば、府内で働きたかった」と回答した男性は28%、女性は25%と男女とも府内で働きたいという回答が多くなっている。また、その割合は、図3.1.2の「地元で働きたかった」「どちらかと言えば地元で働きたかった」の割合より多くなっている。特に女性の方が男性と比べ「府内で働きたかった」と回答する割合が34%と多くなっている(図3.1.4)。

図3.1.3 卒業後、初めて就業する地域についての希望(府内・府外)(単数)

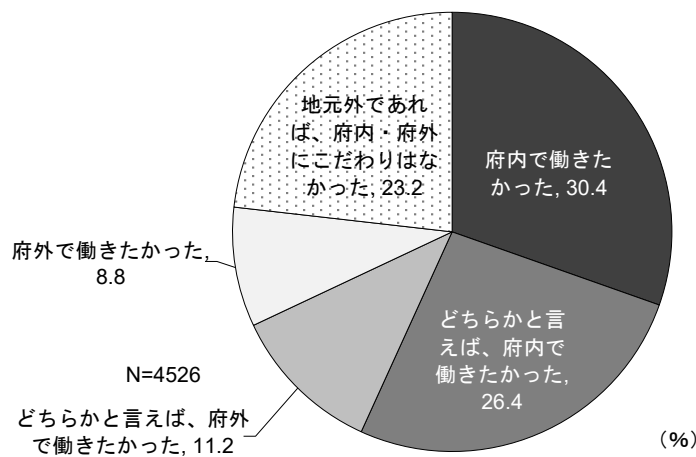


図3.1.4 卒業後、初めて就業する地域についての希望(府内・府外)(男女別)

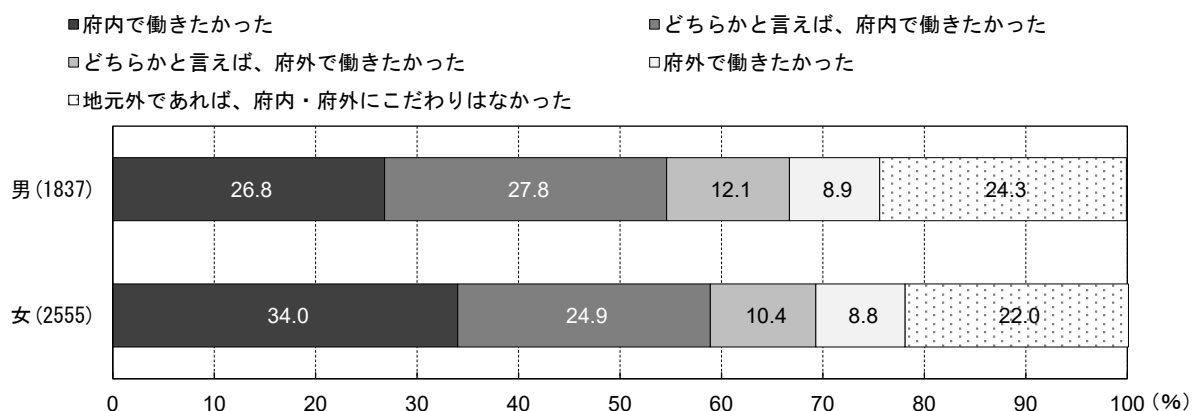


図 3.1.1・図 3.1.3 で「地元（府内）で働きたかった」「どちらかと言えば、地元（府内）で働きたかった」と回答した方に、地元（府内）で働きたかった理由を尋ねた。

地元（府内）で働きたかった理由として、府出身者全体では「地元（府内）にいたいと思っていたから」が 44%と最も多くなっている（図 3.1.5）。

次に男女別では、男性は「働きたい仕事地元（府内）にあるなら、できれば地元（府内）がよいと思う気持ちがあったから」が 40%と最も多く、女性は「地元（府内）にいたいと思っていたから」が 49%と最も多くなっており、男女によって地元（府内）で働きたかった最たる理由が異なる（図 3.1.6）。

図 3.1.5 地元（府内）で働きたかった理由（単数）

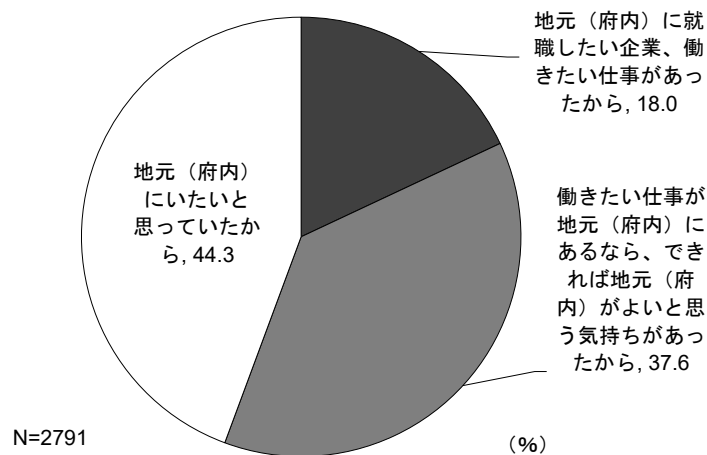


図 3.1.6 地元（府内）で働きたかった理由（男女別）

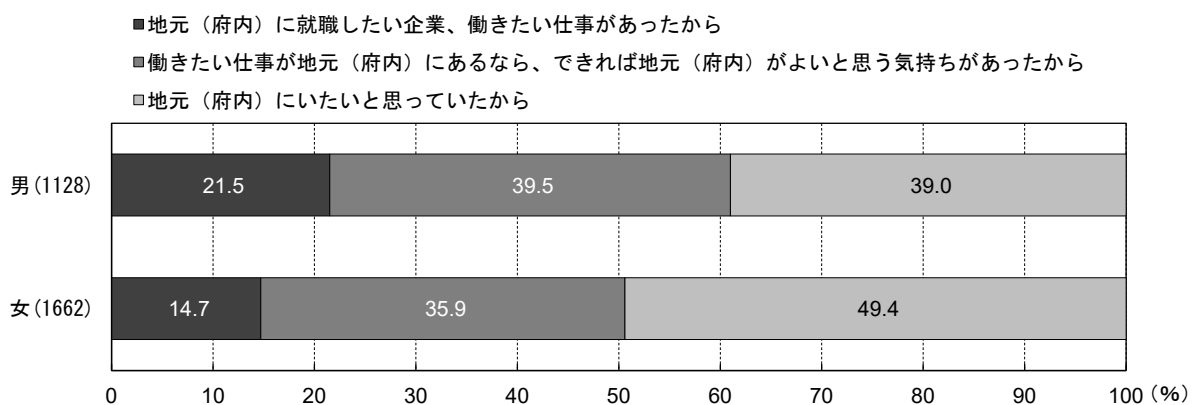


図 3.1.5 で「働きたい仕事が地元（府内）にあるなら、できれば地元（府内）がよいと思う気持ちがあったから」「地元（府内）にいたいと思っていたから」と回答した方に、「地元（府内）がよい」という気持ちがあった理由を尋ねた（図 3.1.7）。

府出身者全体では、「自分自身に、何かしら地元（府内）にいたいという考えがあったから」が 51%と最も多く、次いで「親の近くにいたいと思ったから」が 44%と多くなっている。

次に男女別にみると、男性は「自分自身に、何かしら地元（府内）にいたいという考えがあったから」が 55%と最も多く、女性は「親の近くにいたいと思ったから」が 51%と最も多く、男女によって、「地元（府内）がよい」という気持ちの最たる理由が異なっている。特に「親の近くにいたいと思ったから」は、男性より女性の方が、15%多くなっている（図 3.1.8）。

図 3.1.7 「地元（府内）がよい」という気持ちがあった理由（複数）

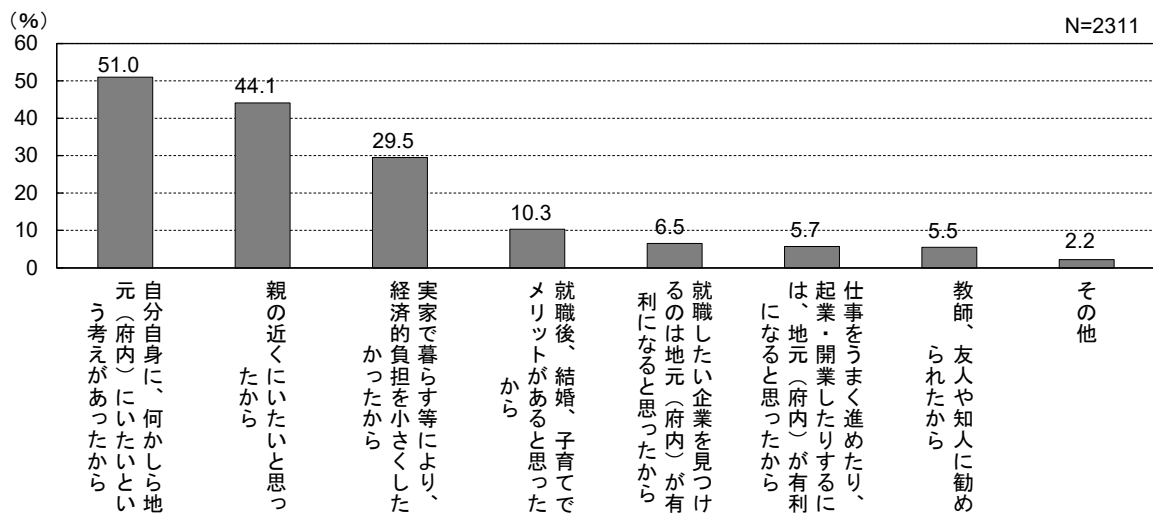


図 3.1.8 「地元（府内）がよい」という気持ちがあった理由（男女別）

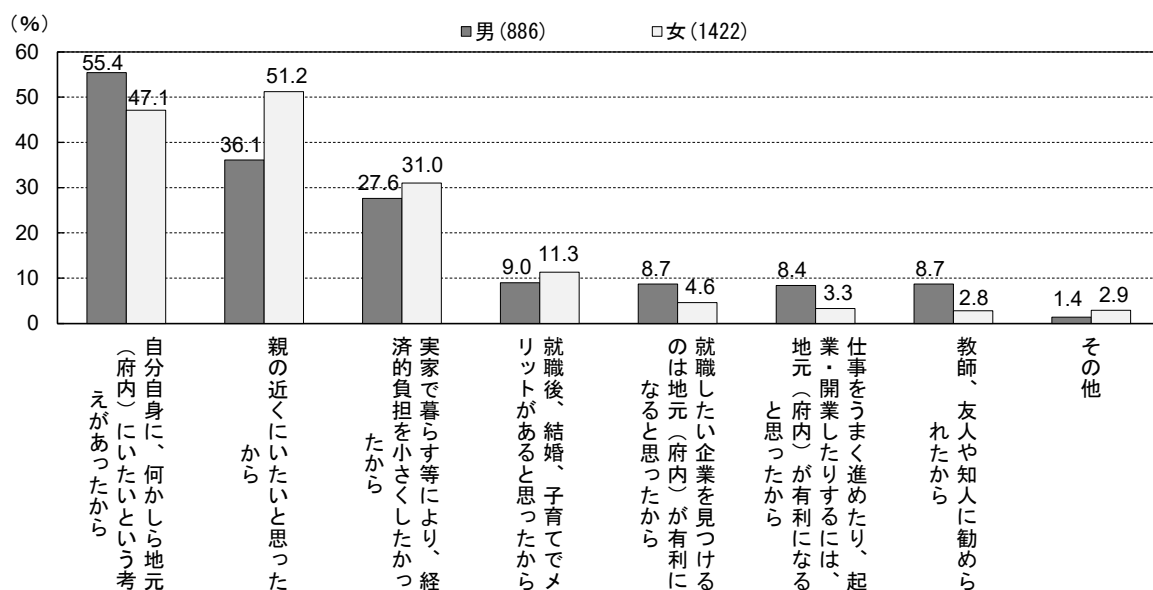


図 3.1.5 において、「地元外（府外）で働きたかった」「どちらかと言えば、地元外で働きたかった」と回答した方に、地元外（府外）で働きたかった理由を尋ねた。

府出身者全体では、「地元外（府外）に出たいと思っていたから」が 34%と最も多く、次いで「地元外（府外）に暮らしたい地域があったから」が 25%と多くなっている。（図 3.1.9）

次に男女別にみると、男性は「地元外（府外）に暮らしたい地域があったから」が 30%と最も多く、女性は地元外（府外）に出たいと思っていたから」が 41%と最も多く、男女によって「地元外（府外）で働きたかった」最たる理由が異なっている。特に「地元外（府外）に出たいと思っていたから」では、男性より女性の方が 13%多くなっている（図 3.1.10）。

図 3.1.9 地元外（府外）で働きたかった理由（単数）

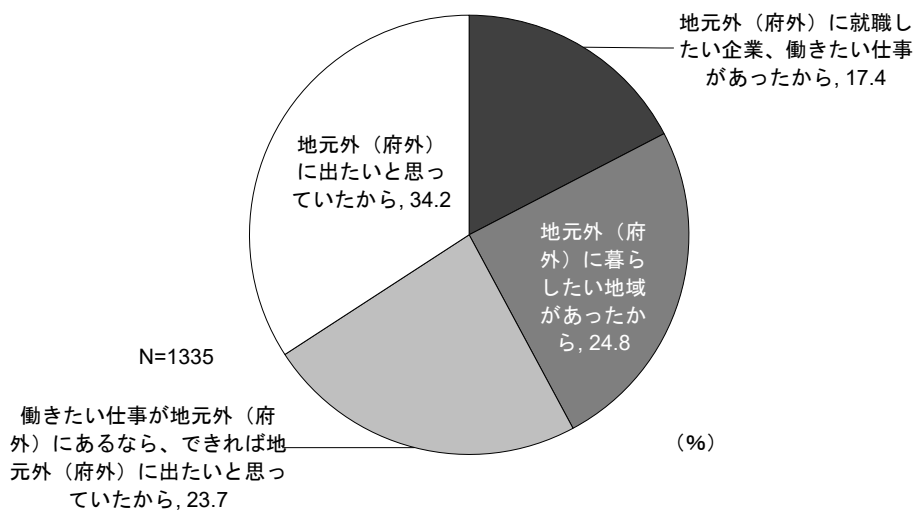


図 3.1.10 地元外（府外）で働きたかった理由（男女別）

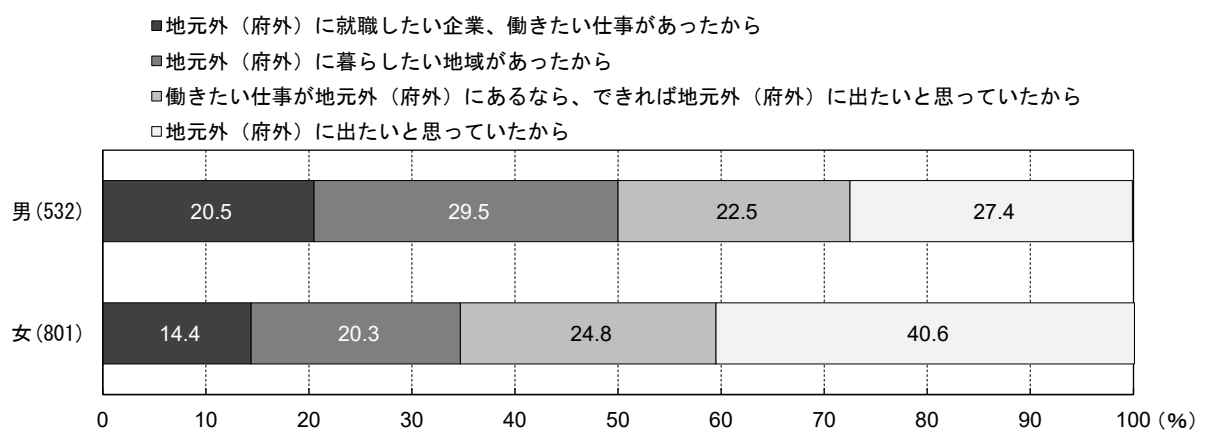


図 3.1.9 で「働きたい仕事が地元外（府外）にあるなら、できれば地元外（府外）に出たいと思っていたから」「地元外（府外）に出たいと思っていたから」と回答した方に、「地元外（府外）に出たい」という気持ちがあった理由を尋ねた。

府出身者全体では、「自分自身に、なにかしら地元（府内）から離れたかったから」が 42%と最も多く、次いで「親元を離れたかったから」が 35%と多くなっている（図 3.1.11）。

次に男女別にみると、「自分自身に、なにかしら地元（府内）から離れたかったから」が男性は 42%、女性は 42%と男女とも最も多くなっており、次いで「親元を離れたかったから」が男女とも多くなっている（図 3.1.12）。

図 3.1.11 「地元外（府外）に出たい」という気持ちがあった理由（複数）

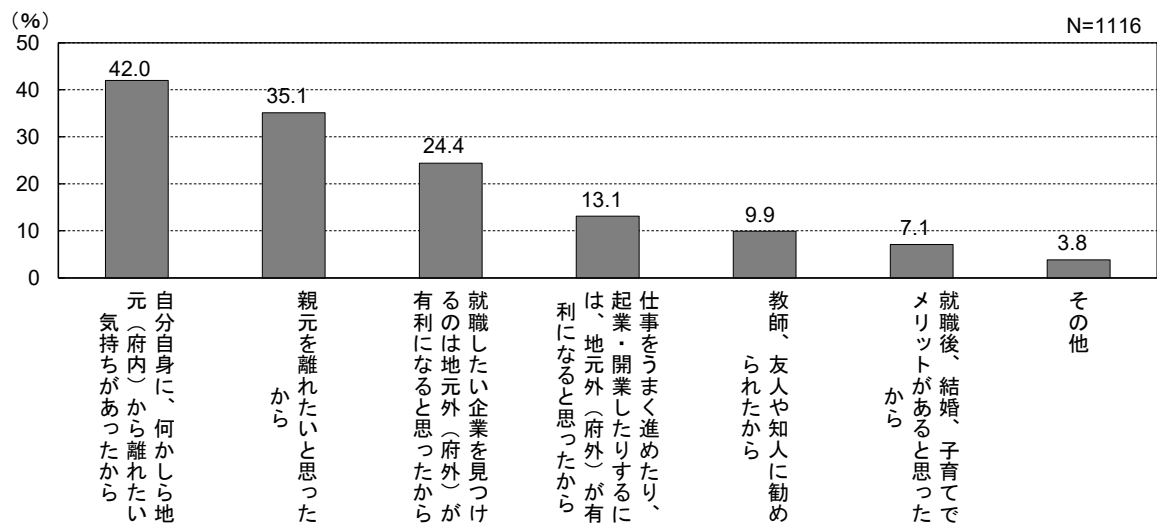
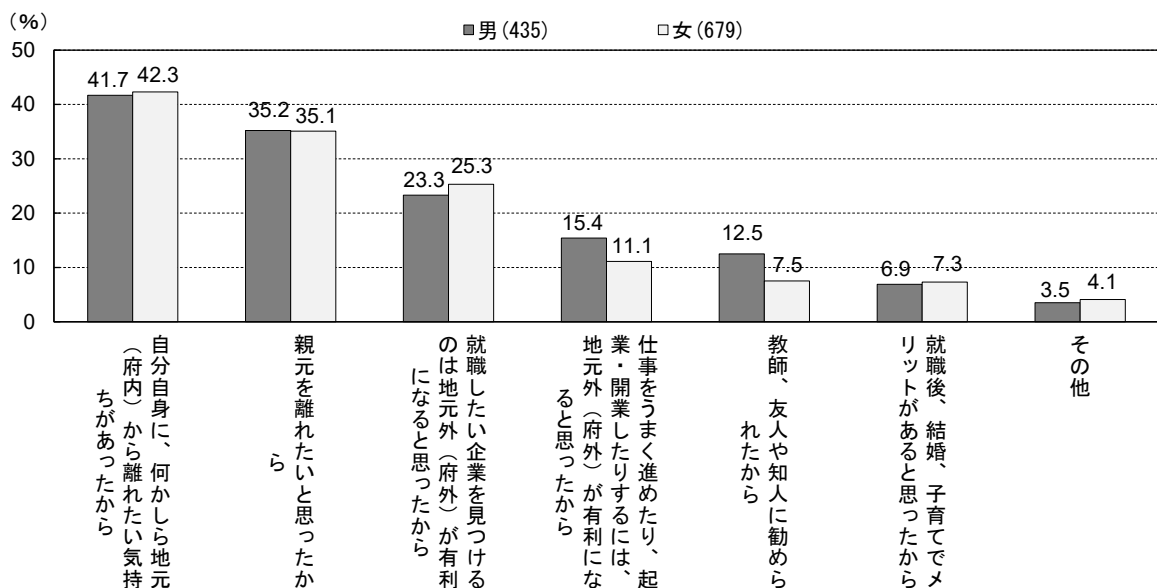


図 3.1.12 「地元外（府外）に出たい」という気持ちがあった理由（男女別）





## (2) 就業地域の希望の実現

現在就業している方に、図 3.1.1・図 3.1.3 での地元内外（府内外）の就職地の希望に対して、実際の就業地域がどうであったか、希望が実現されたかについて尋ねた。

府出身者全体では、「希望通り、地元（府内）で就業した」が 41%と最も多くなっている。

（図 3.1.13）

次に男女別にみると、「希望通り、地元（府内）で就業した」が男性では 36%、女性では 46%と男女とも最も多く、特に女性の方が男性より多くなっている。一方で、男性においては「希望とは異なって、地元外（府外）で就業した」も 15%と多くなっている（図 3.1.14）。

図 3.1.13 就業地域の希望の実現（単数）

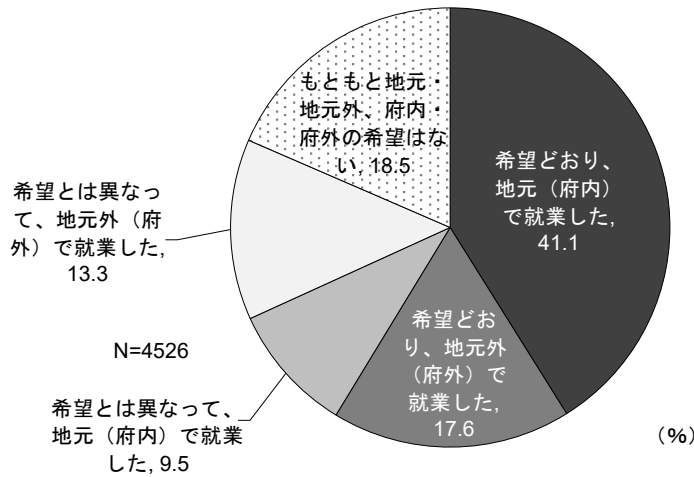


図 3.1.14 就業地域の希望の実現（男女別）

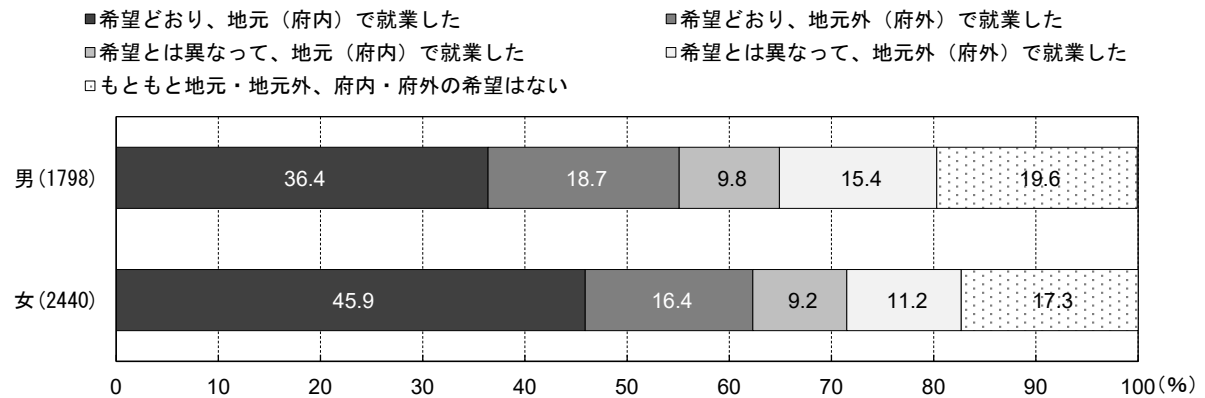


図 3.1.13 で「希望とは異なって、地元（府内）で就業した」「企業とは異なって、地元外（府外）就業した」と回答した方に、就業地域が希望通りにならなかった理由を尋ねた。

府出身者全体では、「就職したい企業、働きたい仕事がなかったから」が 37%、次いで「自分を採用してくれる企業がなかったから」が 36%と多くなっている。（図 3.1.15）

次に男女別にみると、男性は「就職したい企業、働きたい仕事がなかったから」が 40%、女性は「自分を採用してくれる企業がなかったから」が 34%と最も多く、男女で就業地域が希望どおりにならなかった最たる理由が異なっている。一方で「経済的な事情から」「親の希望でやむを得なかったから」の家庭の理由においても、男女とも 10%以上の方が回答している（図 3.1.16）。

図 3.1.15 就業地域が希望どおりにならなかった理由（複数）

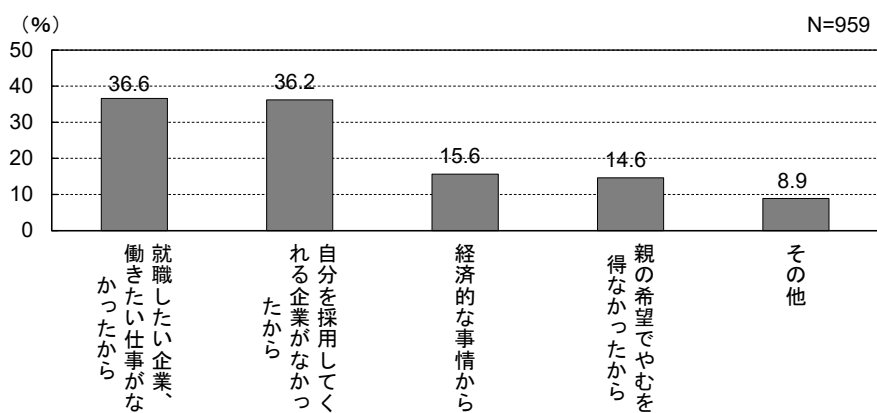
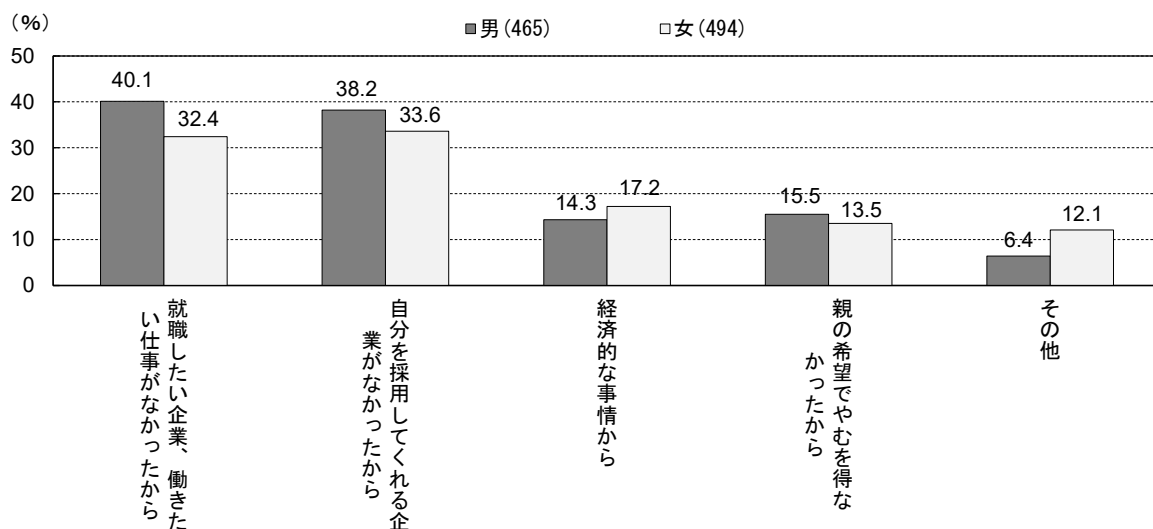


図 3.1.16 就業地域が希望どおりにならなかった理由（男女別）



### (3) 就業転出者の潜在的な希望

就業を機に地元から転出された方に、自分らしいと思える仕事や働きたい職種が地元であれば、地元で暮らしてもよかったと思うかを尋ねた。

府出身者全体では、「どちらかと言えばそう思う」が28%と最も多く、『思う』（「とてもそう思う」「そう思う」「どちらかと言えば、そう思う」の合計）は68%となっている。（図3.1.17）

次に男女別にみると、『思う』（「とてもそう思う」「そう思う」「どちらかと言えば、そう思う」の合計）と回答した男性は69%、女性は67%と男性の方が女性に比べわずかに多くなっている（図3.1.18）。

図3.1.17 自分らしいと思える仕事や働きたい職種が地元（府内）にあれば、地元（府内）で暮らしてもよかったと思うか（地元から転出）（単数）

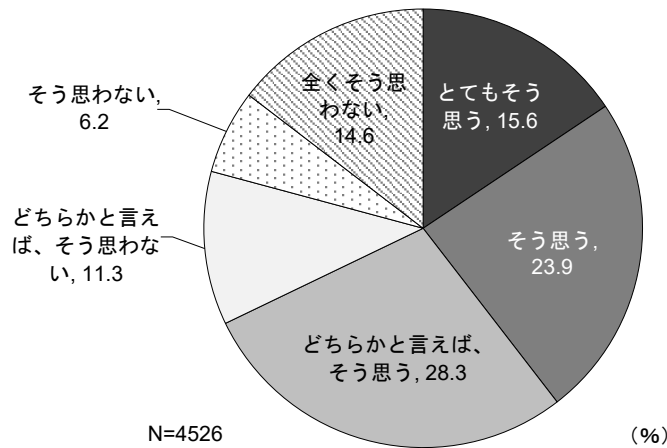


図3.1.18 自分らしいと思える仕事や働きたい職種が地元（府内）にあれば、地元（府内）で暮らしてもよかったと思うか（地元から転出）（男女別）

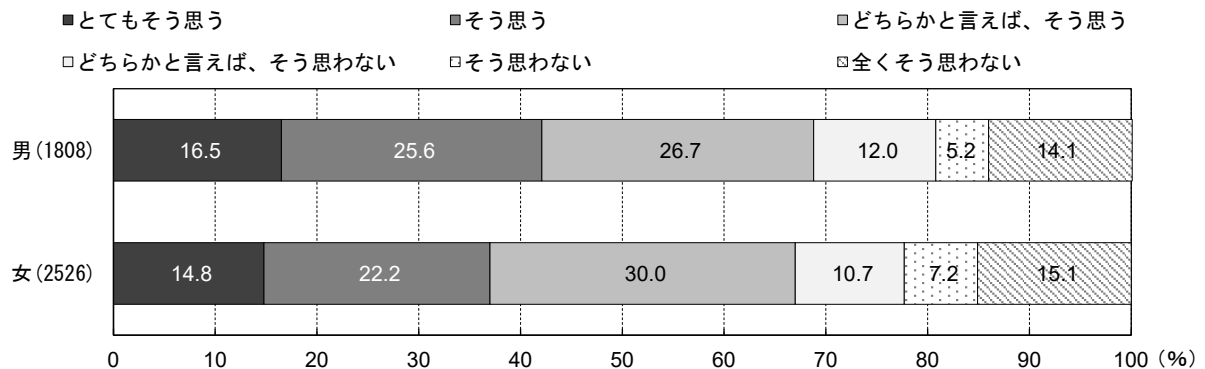


図 3.1.17 と同様に就業を機に府内から転出された方に、自分らしいと思える仕事や働きたい職種が地元（府内）にあれば、地元（府内）で暮らしてもよかったと思うかを尋ねた。

府出身者全体では、「どちらかと言えば、そう思う」が30%と最も多く、『思う』（「とてもそう思う」「そう思う」「どちらかと言えば、そう思う」の合計）と回答した方の合計は、68%となっている（図 3.1.19）。

次に男女別にみると、『思う』（「とてもそう思う」「そう思う」「どちらかと言えば、そう思う」の合計）と回答した男性は69%、女性は67%となっている（図 3.1.20）。

図 3.1.19 自分らしいと思える仕事や働きたい職種が地元（府内）にあれば、地元（府内）で暮らしてもよかったと思うか（府内から転出）（単数）

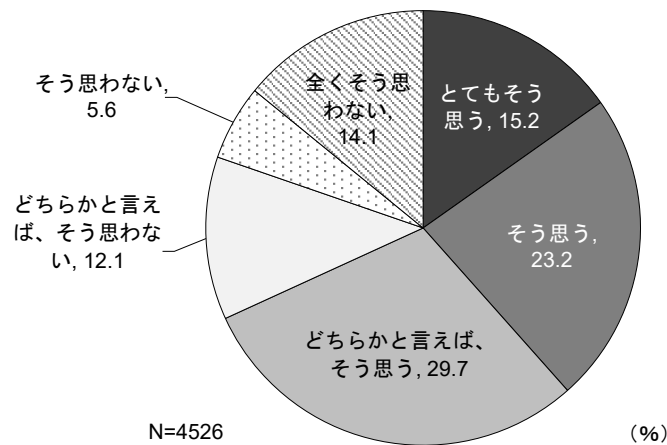
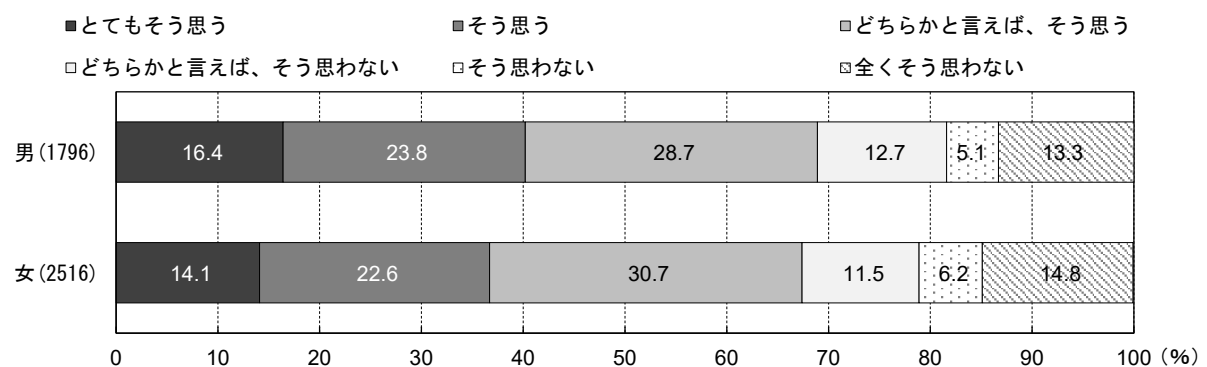


図 3.1.20 自分らしいと思える仕事や働きたい職種が地元（府内）にあれば、地元（府内）で暮らしてもよかったと思うか（府内から転出）（男女別）

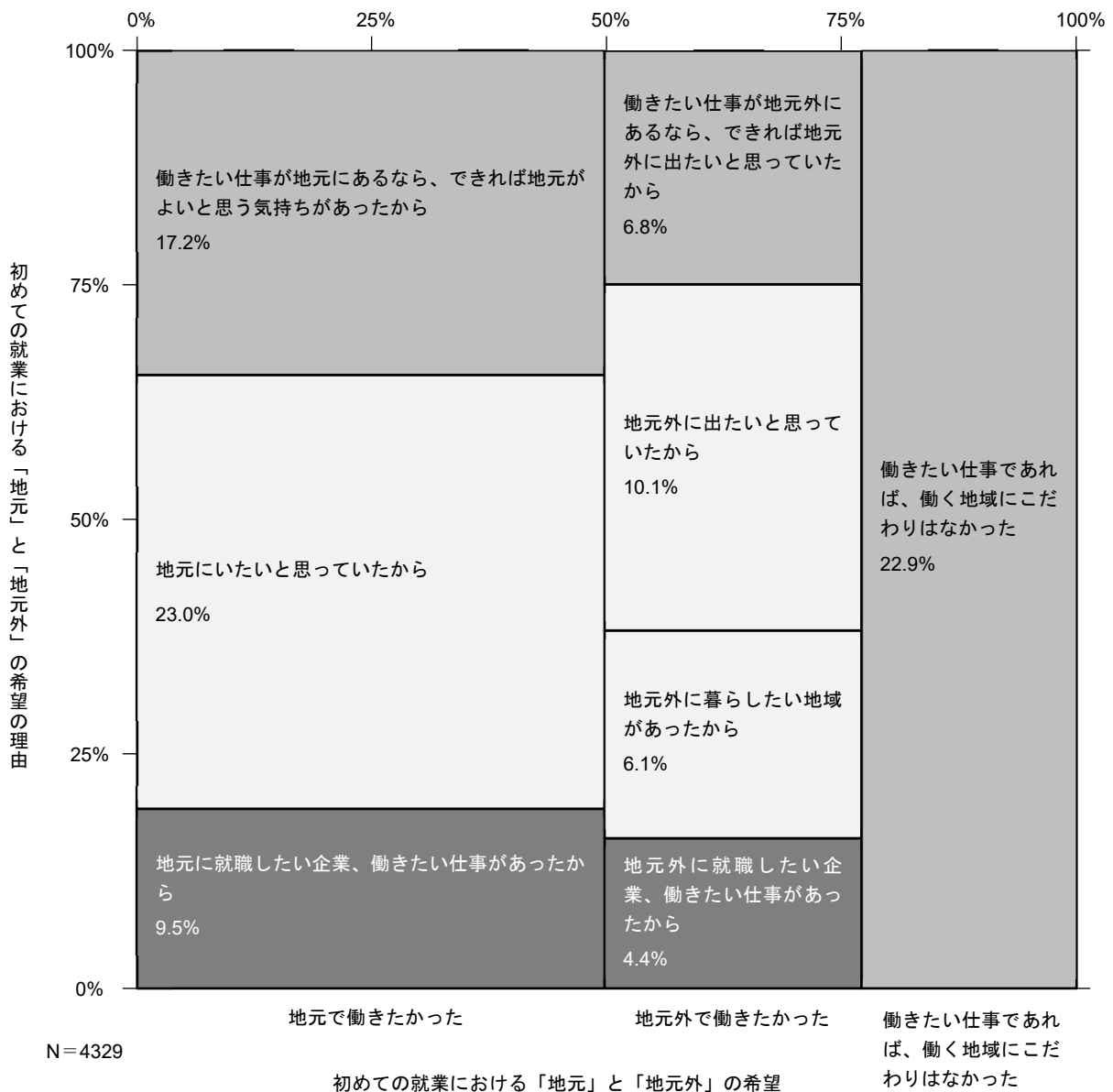


#### (4) 就業地域の希望のセグメント化

図 3.1.21 は、図 3.1.1 の進学の初めての就業における「地元」と「地元外」の希望と、図 3.1.5 の初めての就業における「地元」と「地元外」の希望の理由の組み合わせたモザイク図※である。図中の四角形（セル）は、図の全体（府出身者の就業地（地元・地元外）の希望者）に対するセグメントになっており、図中の数値は、全体を 100 としたとき、それぞれの理由が占める割合である。

「地元をいたいと思っていたから」の面積の大きさが最も大きく、全体の 23%を占めている。これは中立的回答である「働きたい仕事であれば、働く地域にこだわりはなかった」と同じ大きさを占める。そのため、小さな変化率であっても全体への影響が大きいことを示す。この点で、施策の重要ターゲットといえる（図 3.1.21）。

図 3.1.21 「地元」と「地元外」の希望と理由（府全体・就業）



※モザイク図はマリメッコチャートともいい、クロス集計表を積み上げグラフに表したものである。横幅は表側の項目の度数の比になっている。データの構造を理解するために作成するが、図中の四角形の面積が全体に占める割合になることから、各セグメントのサイズを把握することができる。

(5) 地域別の集計

①就業地域の希望

「地元で働きたかった」「どちらかと言えば、地元で働きたかった」という地元志向は、京都市域(55%)や山城北部(52%)等に多い(図 3.1.22)。逆に地元志向が少ないのは、相楽東部(18%)、丹後(36%)等である。

府内・府外では、相楽東部を除けば50%から60%が「府内で働きたかった」「どちらかと言えば、府内で働きたかった」としている(図 3.1.23)。その中でも山城北部(61%)を超える。

図 3.1.22 出身地別にみた卒業後、初めて就業する地域についての希望(地元・地元外)(単数)

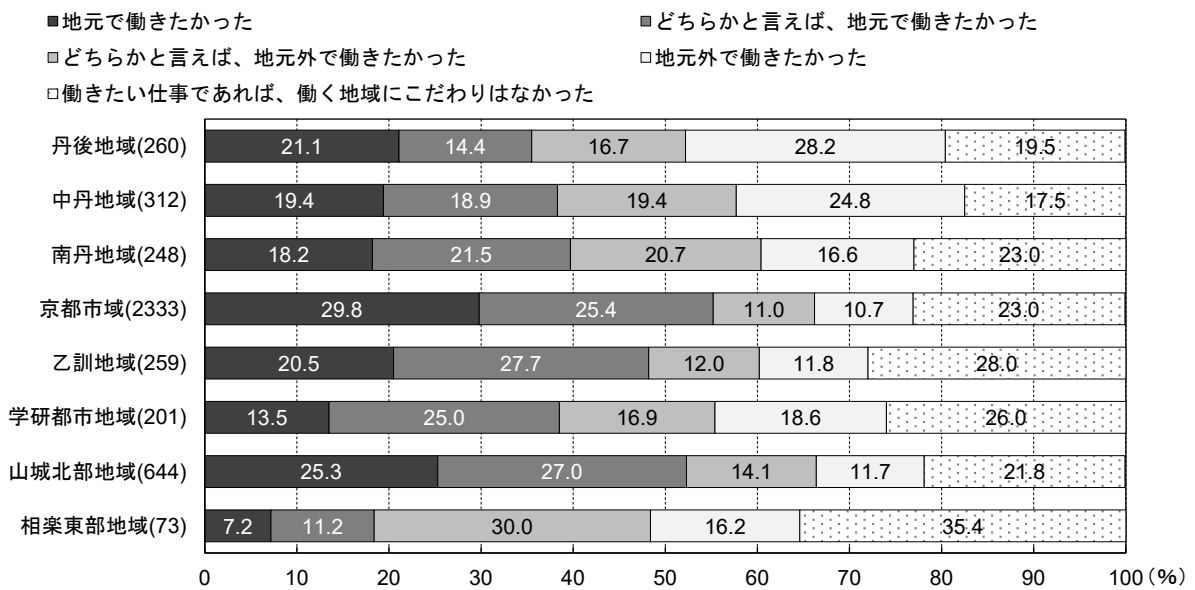
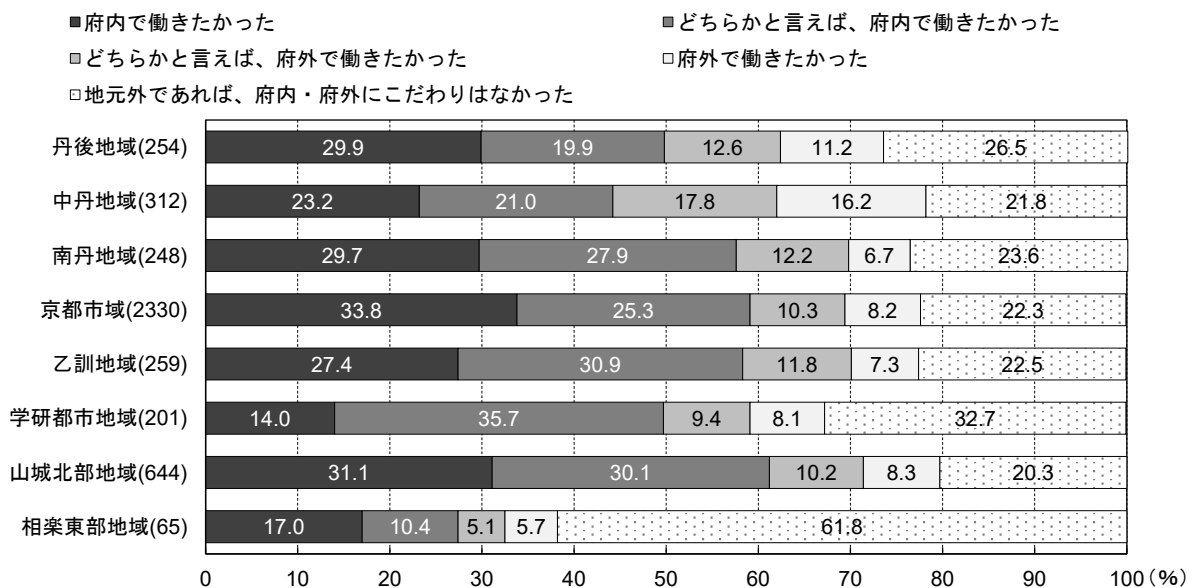


図 3.1.23 出身地別にみた卒業後、初めて就業する地域についての希望(府内・府外)(単数)



## ②地元（府内）で働きたかった理由

地元（府内）で働きたかった理由は、「地元（府内）に就職したい企業、働きたい仕事があったから」に地域差が表れている（図 3.1.24）。相楽東部（11%）、丹後（12%）等が少なく、京都市域と学研都市では19%に上る。この他では、丹後では「地元（府内）にいたいと思っていたから」が51%に上り、相楽東部では「働きたい仕事地元（府内）にあるなら、できれば地元（府内）がよいと思う気持ちがあったから」が64%に達するなど特徴が表れている。

「地元がよい」という気持ちがあった理由には地域間で大きな差異はみられない（表 3.1.1）。

図 3.1.24 出身地別にみた地元（府内）で働きたかった理由（単数）

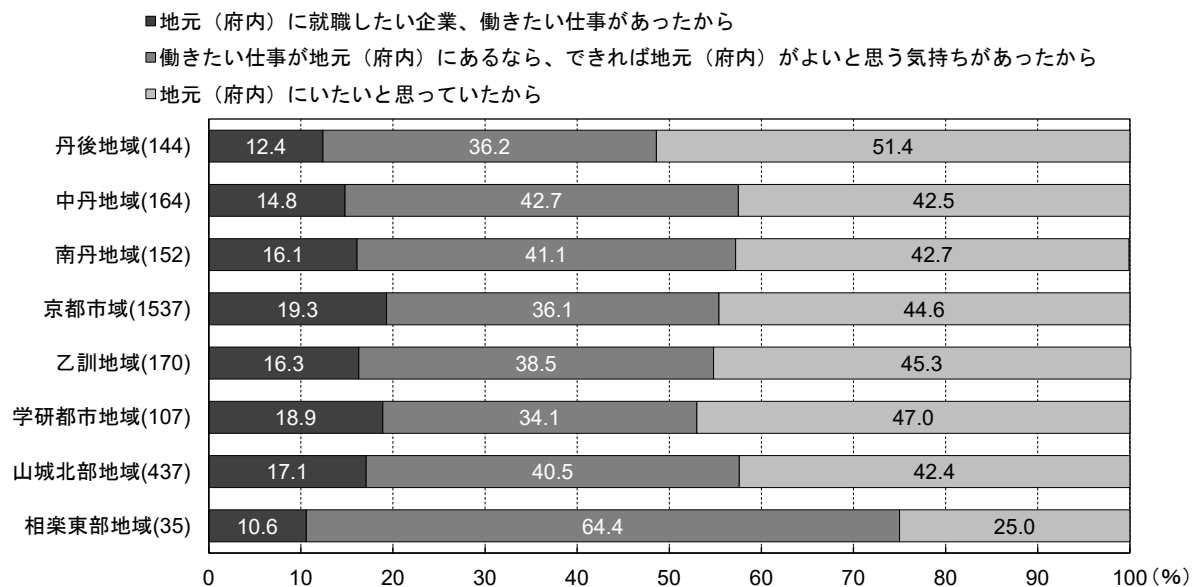


表 3.1.1 出身地別にみた「地元（府内）がよい」という気持ちがあった理由（複数）

(%)

区分	N	自分自身に、何かしら地元（府内）にいたいという考えがあったから	親の近くにいると思ったから	実家で暮らす等により、経済的負担を小さくしたかったから	就職後、結婚、子育てでメリットがあると思ったから	就職したい企業を見つけるのは地元（府内）が有利になると思ったから	仕事をうまく進めたり、起業・開業したりするには、地元（府内）が有利になると思ったから	教師、友人や知人に勧められたから	その他
全体	2270	50.8	44.4	29.7	10.2	6.6	5.7	5.6	2.1
丹後	125	47.3	57.3	23.3	14.6	2.2	3.7	1.3	3.7
中丹	142	51.3	47.2	26.8	10.9	4.5	2.6	4.1	2.5
南丹	133	47.3	42.2	33.3	15.5	3.6	2.5	0.6	2.5
京都市域	1252	51.8	42.0	29.5	9.3	7.4	7.1	6.6	2.1
乙訓	140	53.1	43.0	31.9	10.0	7.5	1.0	5.4	1.2
学研都市	90	53.9	42.2	23.2	13.4	6.0	5.0	4.0	0.8
山城北部	363	48.1	50.2	32.5	9.0	6.5	6.1	6.3	2.1
相楽東部	25	39.5	26.4	42.4	4.9	18.8	-	-	2.0

### ③地元外（府外）で働きたかった理由

地元外（府外）で働きたかった理由は、丹後では「地元外（府外）に出たい」と思っていたから」（52%）、相楽東部では「地元外（府外）に就職したい企業、働きたい仕事があったから」（23%）、中丹では「地元外（府外）に暮らしたい地域があったから」（39%）が多いなど地域ごとに特徴が表れている（図 3.1.5）。

「地元外（府外）に出たい」という気持ちの理由は、標本サイズが少なく参考値ながら、相楽東部で「仕事をうまく進めたり、起業・開業したりするには、地元外（府外）が有利になると思ったから」（65%）、「就職したい企業を見つけるのは地元外（府外）が有利になると思ったから」（45%）が際立って多い（表 3.1.2）

図 3.1.25 出身地別にみた地元外（府外）で働きたかった理由（単数）

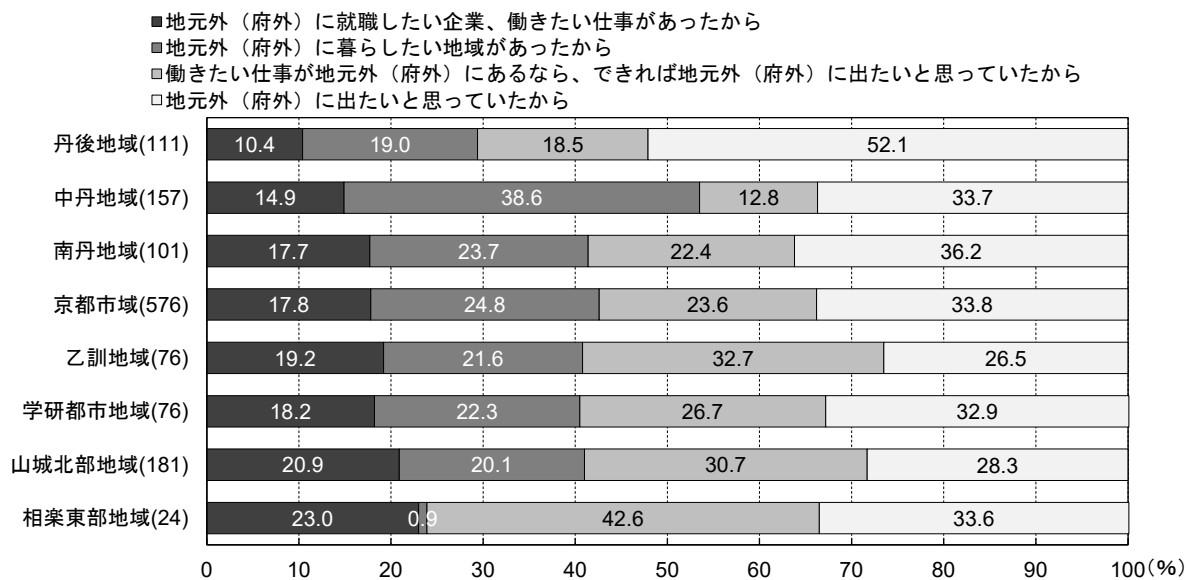


表 3.1.2 出身地別にみた「地元外（府外）に出たい」という気持ちがあった理由（複数）  
（%）

区分	N	自分自身に、何かしら地元（府内）から離れたい気持ちがあったから	親元を離れたいと思ったから	就職したい企業を見つけるのは地元外（府外）が有利になると思ったから	仕事をうまく進めたり、起業・開業したりするには、地元外（府外）が有利になると思ったから	教師、友人や知人に勧められたから	就職後、結婚、子育てでメリットがあると思ったから	その他
全体	1085	42.0	35.4	24.6	12.9	9.9	7.2	3.6
丹後	96	54.2	28.0	34.6	15.5	4.4	1.6	7.5
中丹	137	47.6	33.2	29.9	7.9	4.3	7.3	1.6
南丹	85	34.9	42.7	16.8	10.1	10.8	10.0	5.1
京都市域	480	38.5	34.5	24.1	12.5	13.9	7.1	3.4
乙訓	61	28.5	42.2	23.9	10.8	12.3	9.8	7.7
学研都市	59	44.1	42.2	28.6	25.3	4.9	4.2	2.2
山城北	148	49.3	35.8	17.6	11.9	7.2	8.2	2.5
相楽東部	19	44.4	7.4	44.8	64.5	-	26.0	2.4



#### ④就業地域の希望の実現

「希望とは異なって、地元外（府外）で就業した」に着目すると、学研都市（15%）、京都市域（15%）等が多く、これらの地域では、この回答が「希望とは異なって、地元（府内）で就業した」を上回る。人口の多い地域であり、これらの地域の希望の実現は影響が大きいと考えられる。

希望通りにならなかった理由は、乙訓で「就職したい企業、働きたい仕事が多かったから」（51%）、丹後で「親の希望でやむを得なかったから」（27%）が多いなどの特徴がみられる。

図 4.2.1 出身地別にみた就業地域の希望の実現（単数）

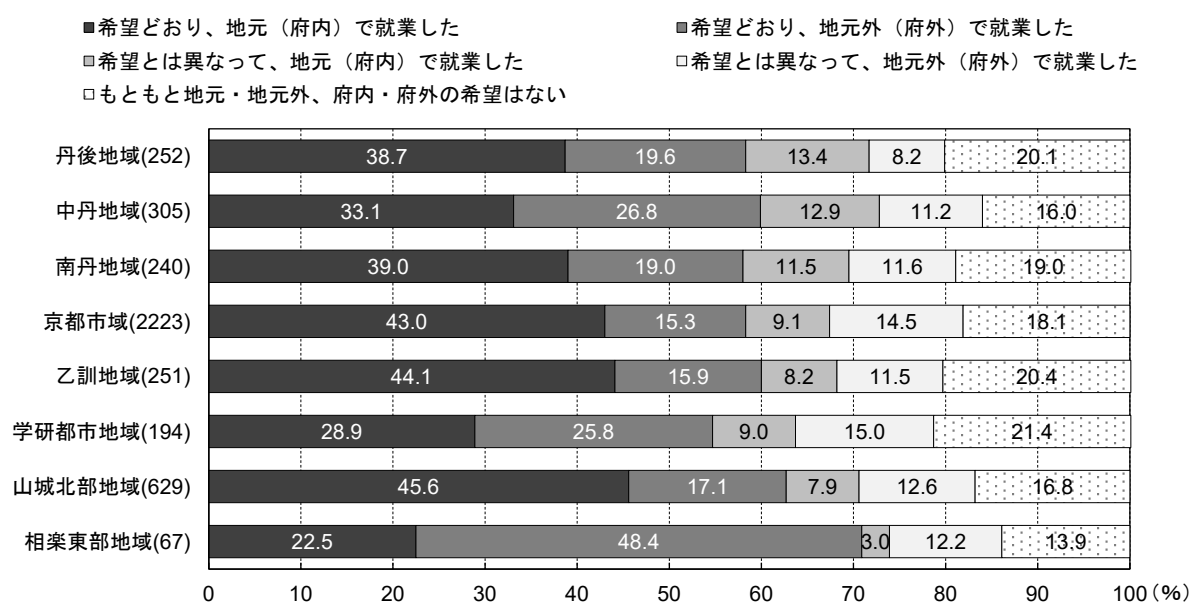


表 4.2.1 出身地別にみた就業地域が希望どおりにならなかった理由（複数）

(%)

区分	N	就職したい企業、働きたい仕事が多かったから	自分を採用してくれる企業が多かったから	経済的な事情から	親の希望でやむを得なかったから	その他
全体	938	37.0	36.1	15.3	14.6	9.0
丹後	56	24.8	26.2	20.6	26.6	12.2
中丹	80	39.1	32.3	18.4	18.7	9.0
南丹	56	32.0	32.9	24.0	24.3	11.1
京都市域	512	35.7	34.8	14.6	14.0	9.4
乙訓	47	51.1	36.4	8.2	12.7	5.5
学研都市	45	33.5	52.4	26.2	9.4	2.5
山城北部	127	43.7	40.7	9.1	9.3	8.5
相楽東部	15	15.3	60.4	-	6.4	66.1

### ⑤地元転出者の潜在的な希望

地元から転出した者のうち、「自分らしいと思える仕事や働きたい職種が地元（府内）にあれば、地元（府内）で暮らしてもよかったと思うか」に賛同する者は、標本サイズが小さく参考値である相楽東部を除けば、地域別に大きな差はみられない。

府からの転出者も同様である。

図 3.1.26 出身地別にみた自分らしいと思える仕事や働きたい職種が地元（府内）にあれば、地元（府内）で暮らしてもよかったと思うか（地元から転出）（単数）

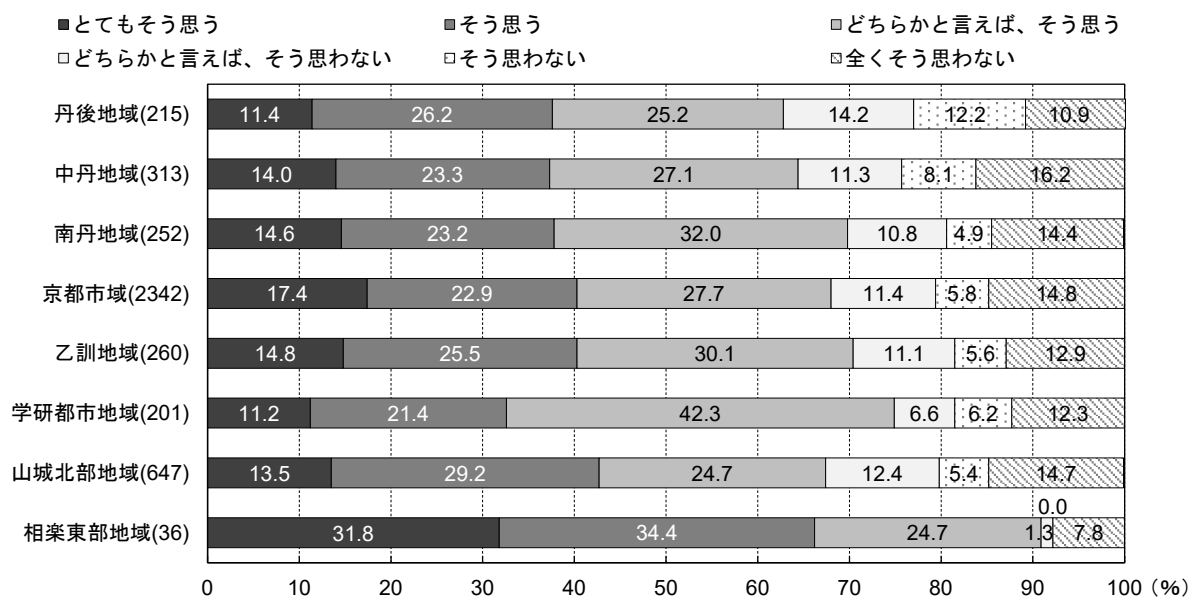
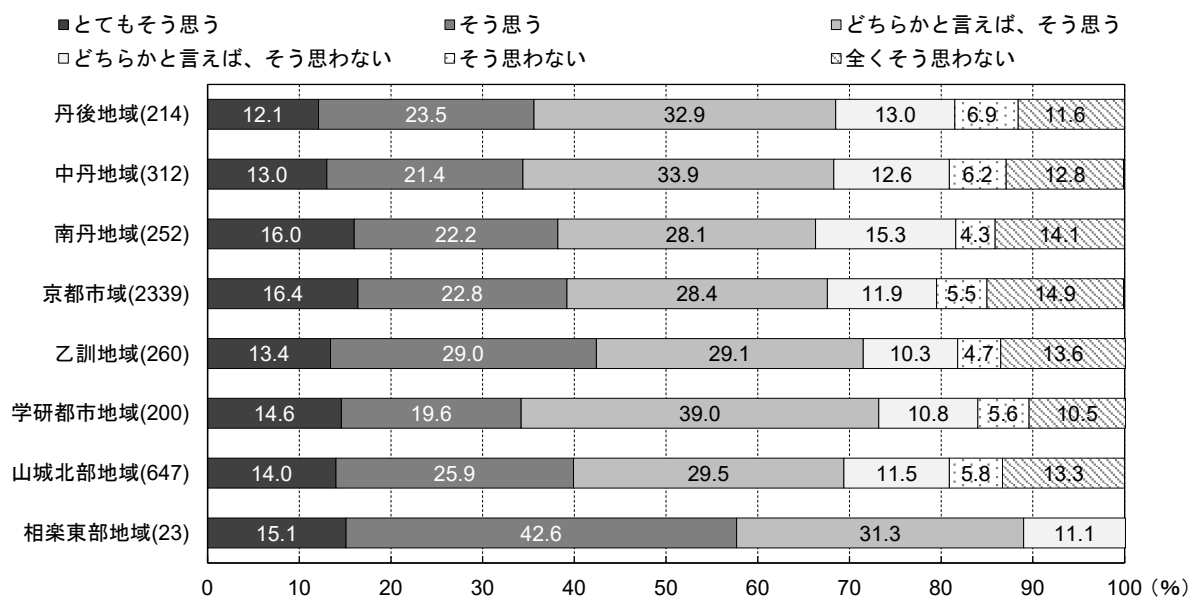


図 3.1.27 出身地別にみた自分らしいと思える仕事や働きたい職種が地元（府内）にあれば、地元（府内）で暮らしてもよかったと思うか（府内から転出）（単数）



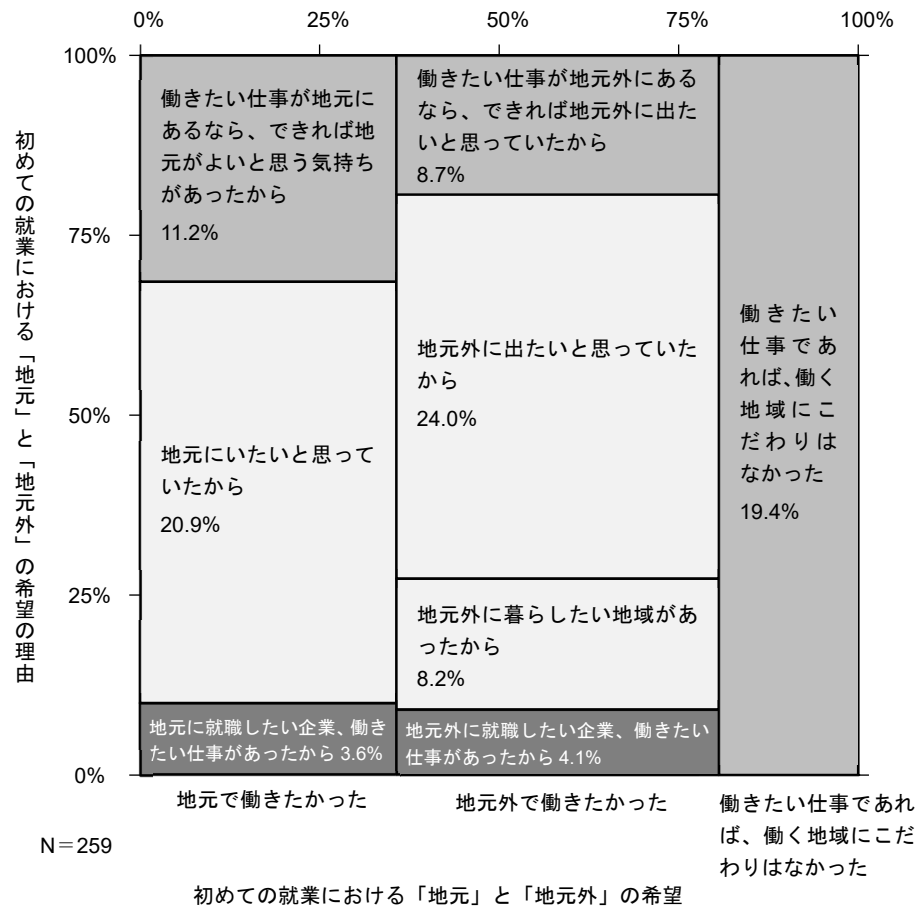
## ⑥就業地域の希望のセグメント化

次ページ以降に、初職就業の地域選択の希望と、その理由により、各地域出身者のセグメント化を行った（図 3.1.28）。

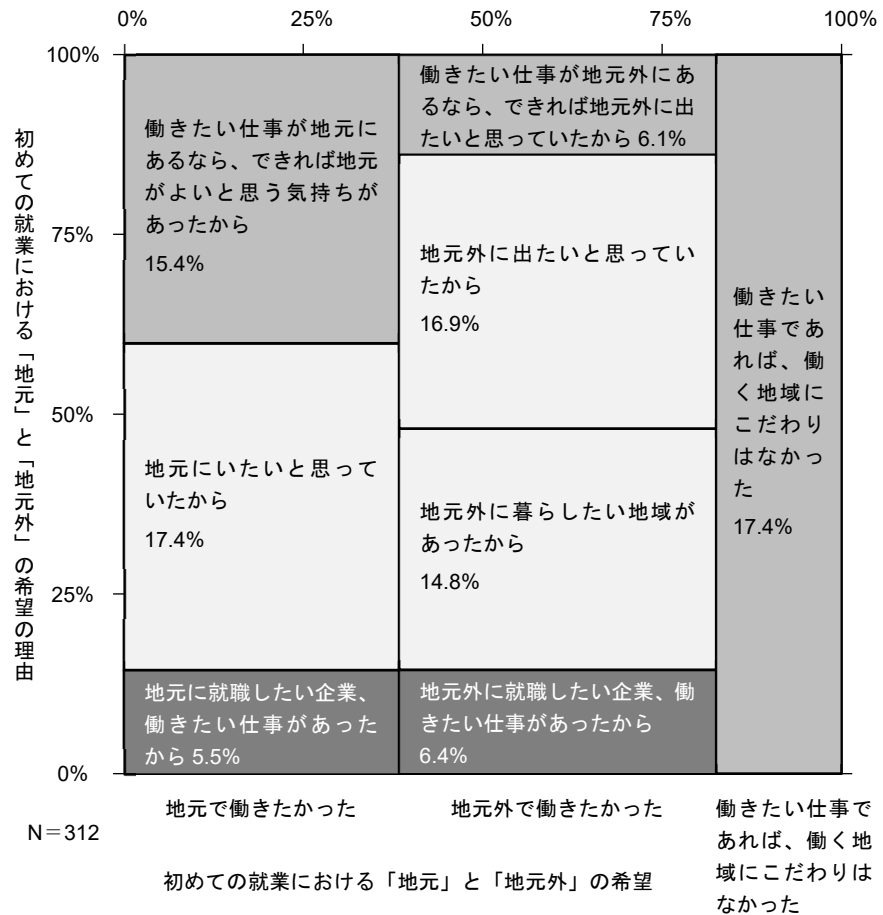
特に、「地元でいたいと思っていたから」や「地元外に出たいと思っていたから」といった希望に地域差がみられる。また、産業・企業の集積を反映したと考えられる「地元で就職したい企業、働きたい仕事があったから」のほか、「働きたい仕事であれば、働く地域にこだわりはなかった」という中間的回答が多い地域もあり、定住施策を検討する場合の目標設定に利用できると期待される。

図 3.1.28 「地元」と「地元外」の希望と理由（就業）

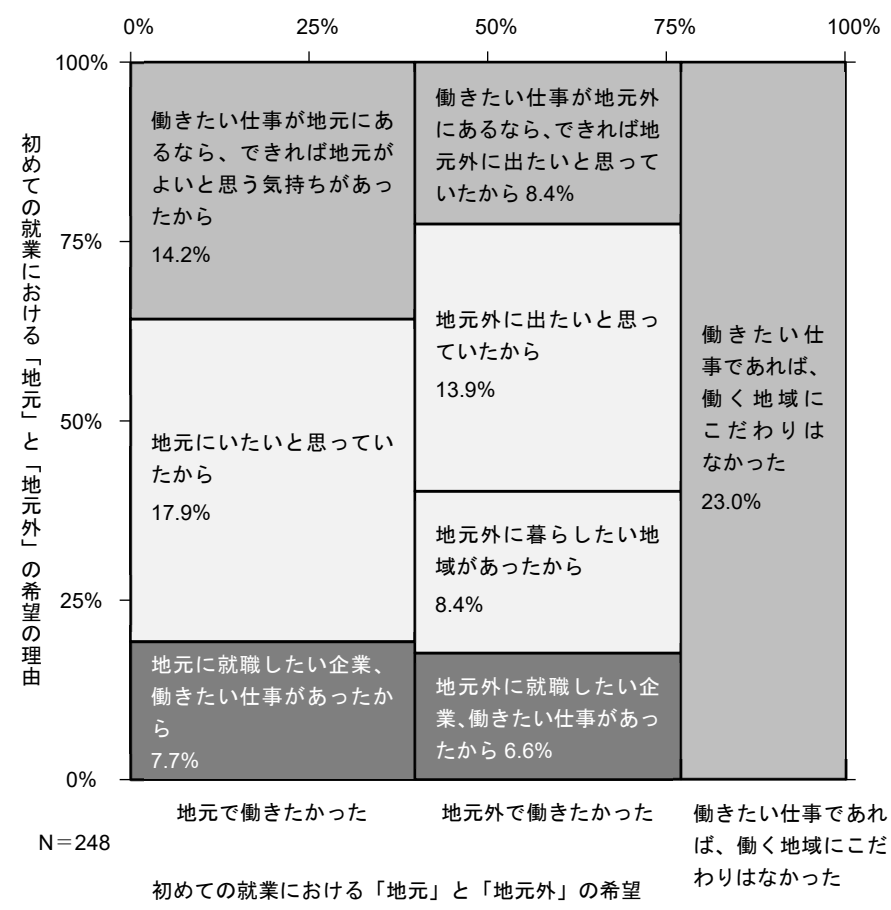
(丹後地域)



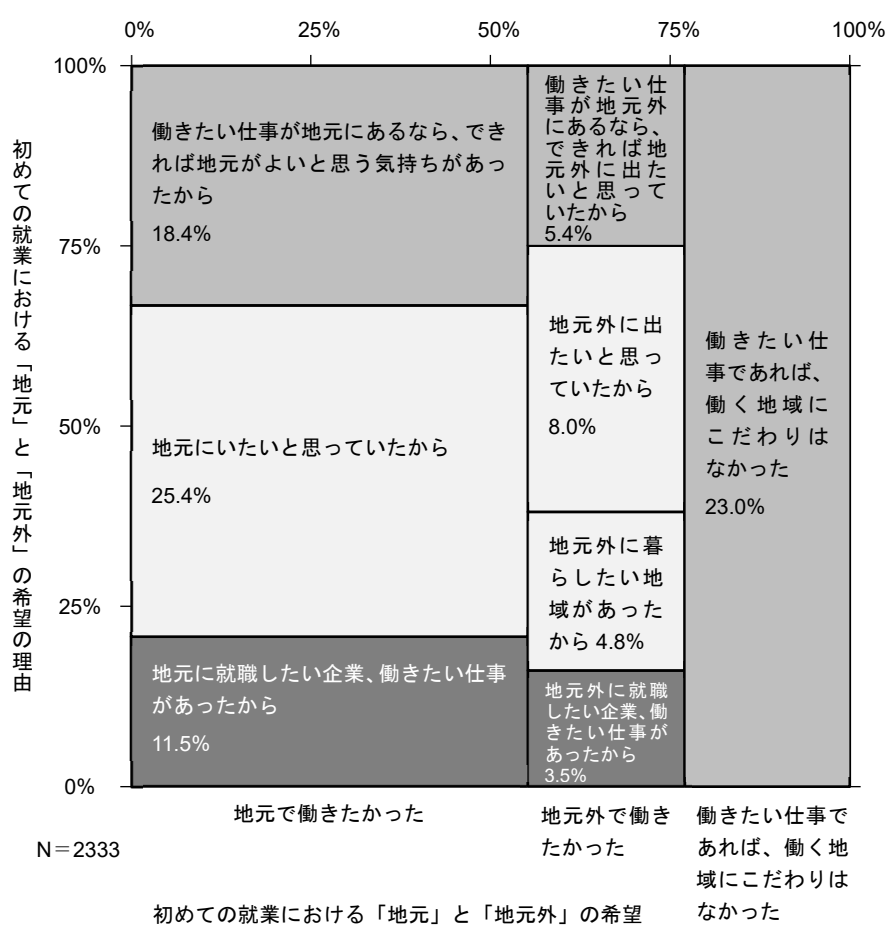
(中丹地域)



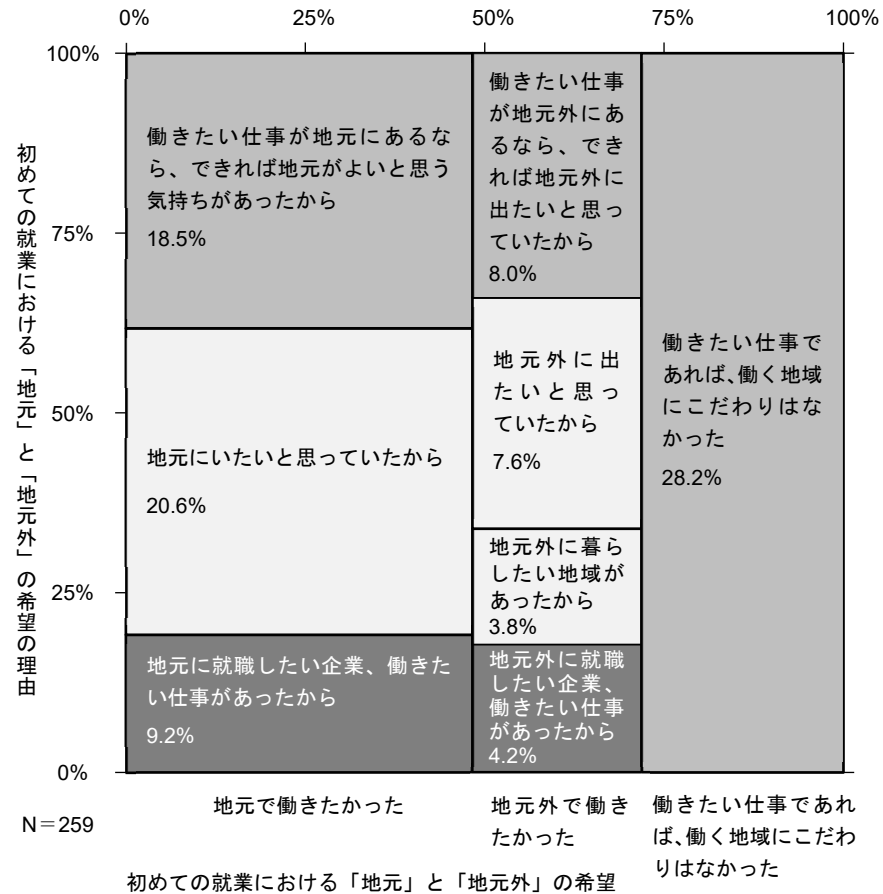
(南丹地域)



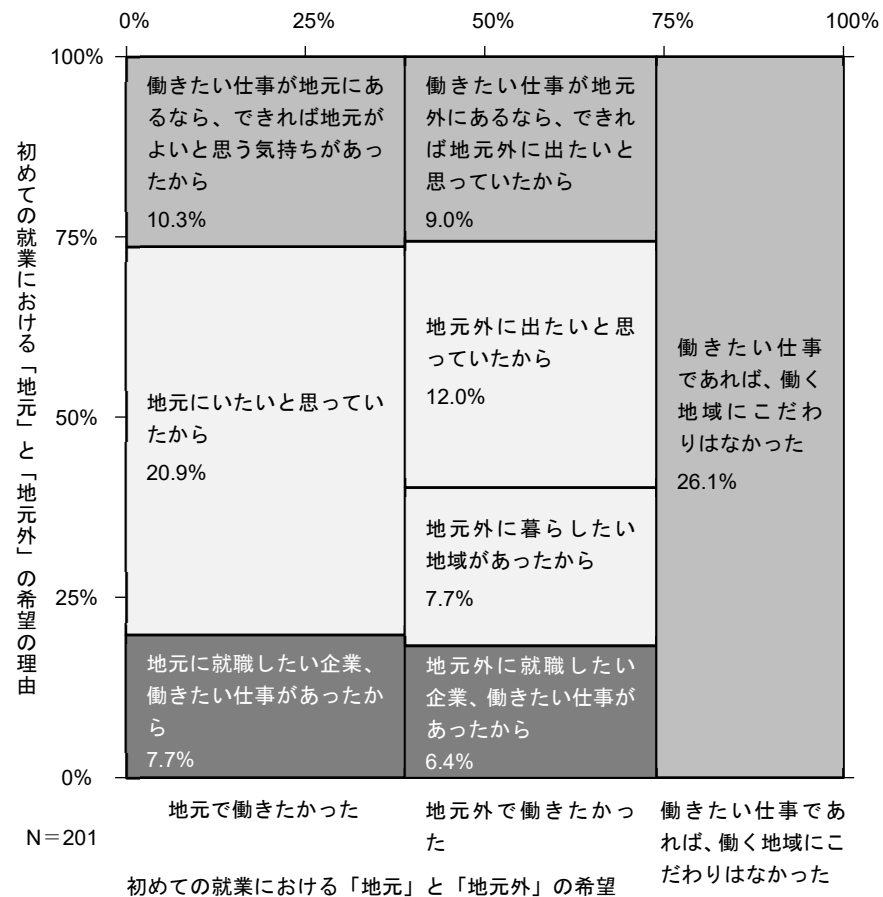
(京都市域)



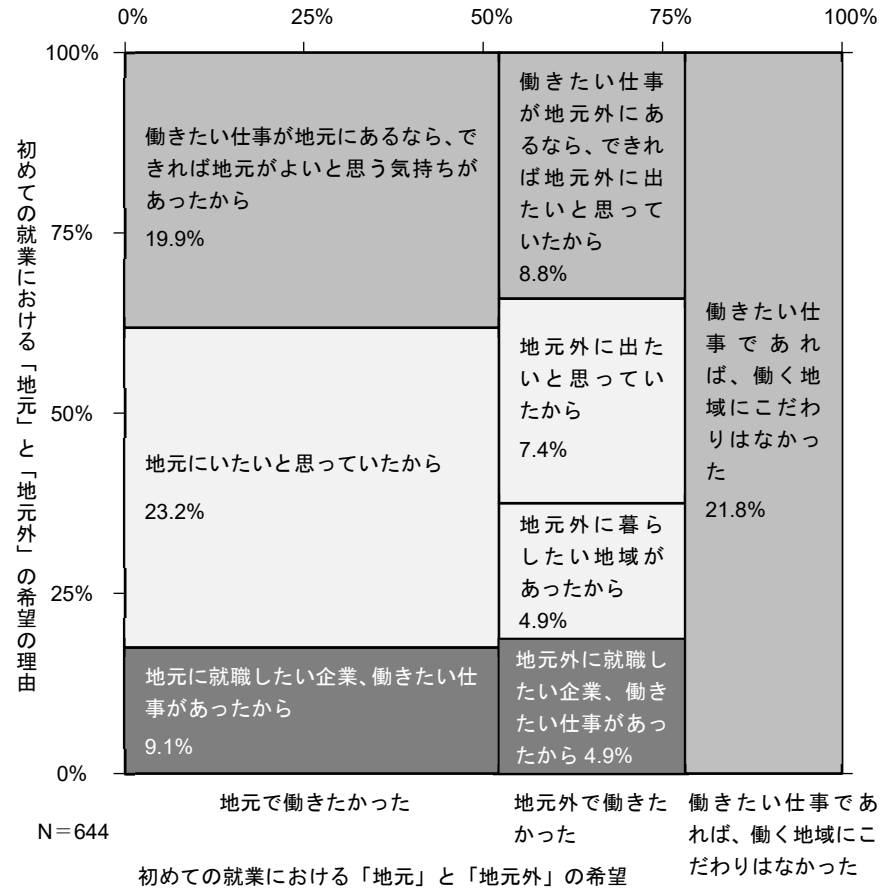
(乙訓地域)



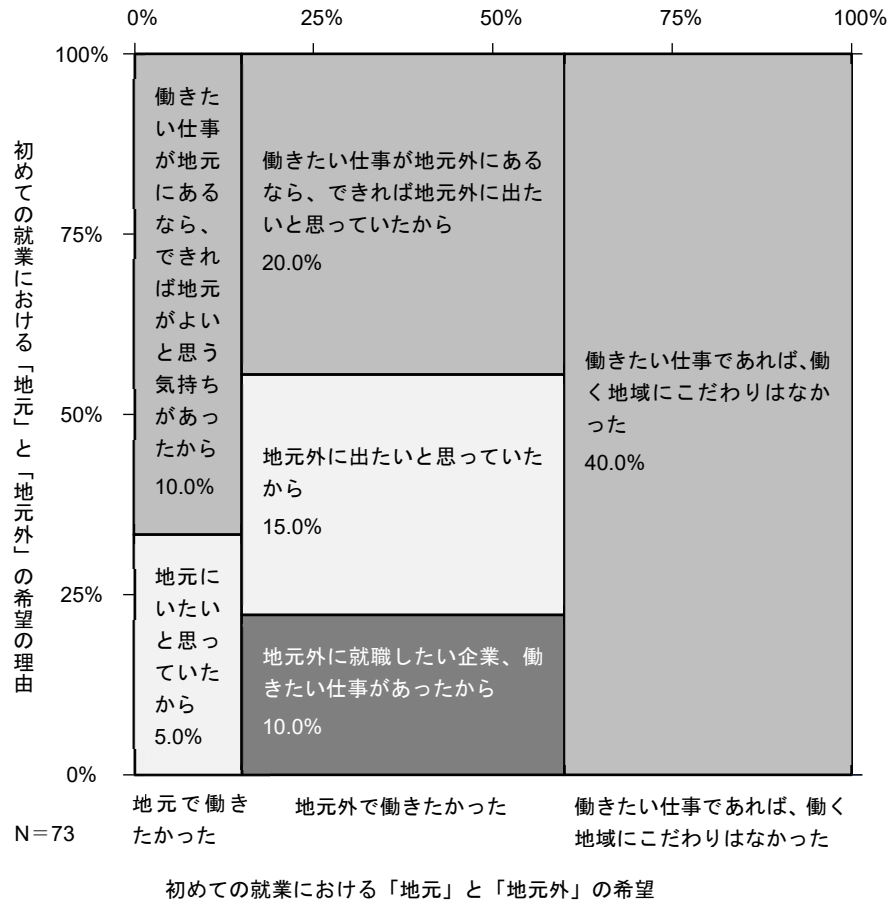
(学研都市地域)



(山城北部地域)



(相楽東部地域)



## 2. 結婚と地域選択

### (1) 結婚地域の希望

府出身者の結婚時の地域の選択について把握するために、まず、結婚経験のある方、あるいは結婚希望がある方に、結婚後に暮らし始める地域について地元と地元外の希望があるか尋ねた。

府出身者全体では、「結婚相手の希望に合わせるなど、結婚後に暮らす地域にこだわりはなかった」が最も多くなっている（図 3.2.1）。

次に男女別にみると、「結婚相手の希望に合わせるなど、結婚後に暮らす地域にこだわりはなかった」が男性は25%、女性は25%と男女とも最も多くなっている。また『地元で暮らしたかった』（「結婚後も地元で暮らしたかった」「どちらかと言えば、結婚後も地元で暮らしたかった」の合計）と回答した方は男性で45%、女性で47%となっている（図 3.2.2）。

図 3.2.1 結婚後に暮らし始める地域についての希望（地元・地元外）（単数）

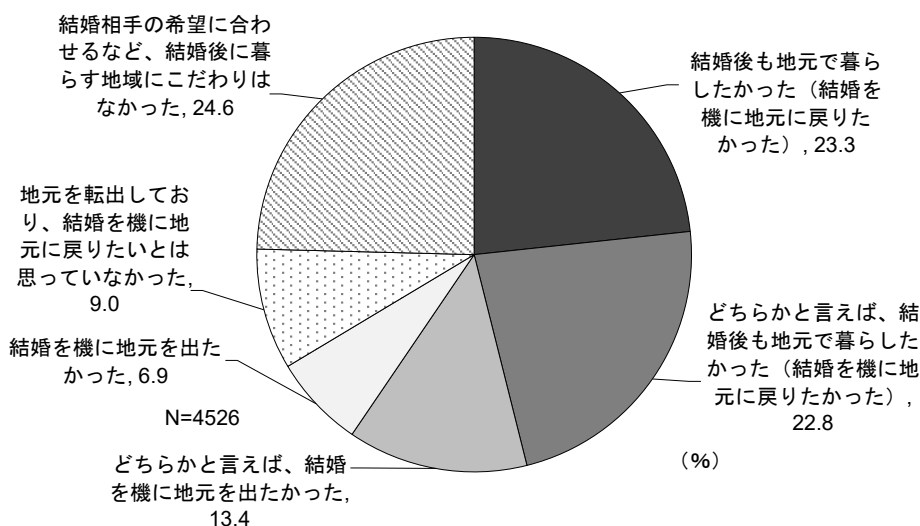


図 3.2.2 結婚後に暮らし始める地域についての希望（地元・地元外）（男女別）

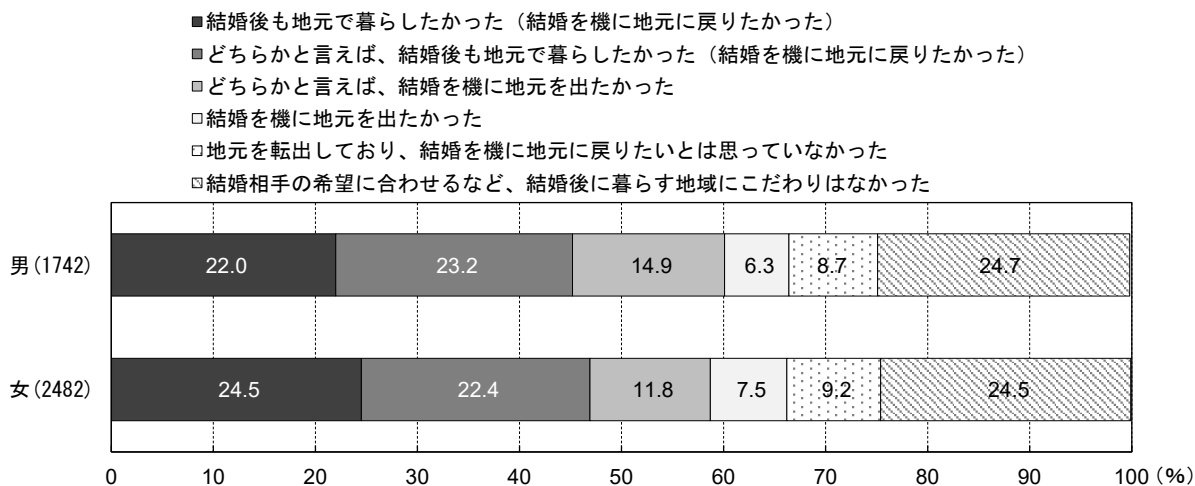




図 3.2.1 と同様に、結婚後に暮らし始める地域について府内と府外の希望があるか尋ねた。府出身者全体では、「結婚後も府内で暮らしたかった」「どちらかと言えば、結婚後も府内で暮らしたかった」が 25%と最も多くなっている（図 3.2.3）。次に男女別にみると、男性は「どちらかと言えば、結婚後も府内で暮らしたかった」が 25%と最も多く、女性は「結婚後も府内で暮らしたかった」が 27%と最も多く、男女によって結婚後に暮らし始める地域の希望が異なっている（図 3.2.4）。

図 3.2.3 結婚後に暮らし始める地域についての希望（府内・府外）（単数）

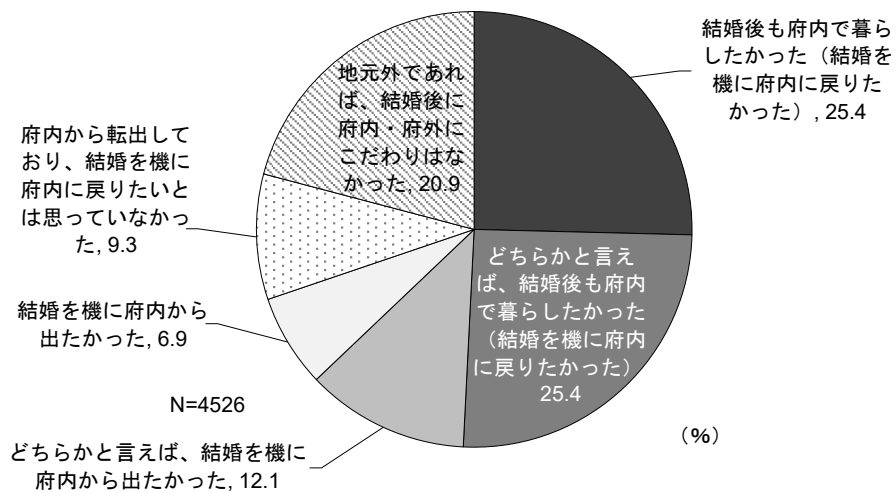


図 3.2.4 結婚後に暮らし始める地域についての希望（府内・府外）（男女別）

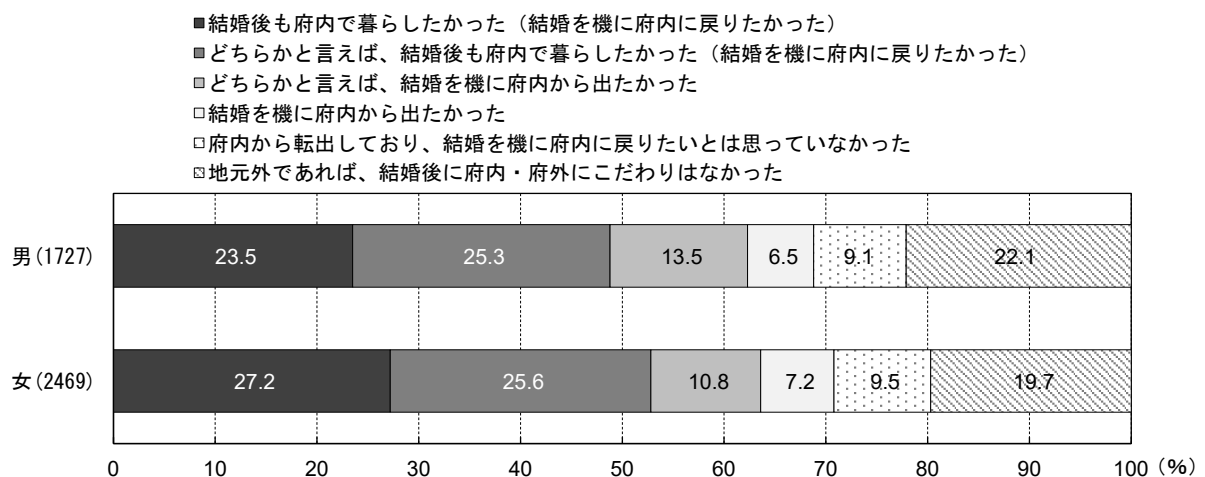


図 3.2.1・図 3.2.3 で「結婚後も地元（府内）で暮らしたかった」「どちらかと言えば、結婚後も地元（府内）で暮らしたかった」と回答した方に、結婚後も地元（府内）で暮らしたかった（結婚を機に地元（府内）に戻りたかった）理由を尋ねた。

府出身者全体では、「地元（府内）にいたいと思っていたから」が 37%と最も多くなっている（図 3.2.5）。

次に男女別にみると、「地元（府内）にいたいと思っていたから」が男性は 37%、女性は 47%と男女とも最も多くなっている（図 3.2.6）。

図 3.2.5 結婚後も地元（府内）で暮らしたかった（結婚を機に地元（府内）に戻りたかった）理由（単数）

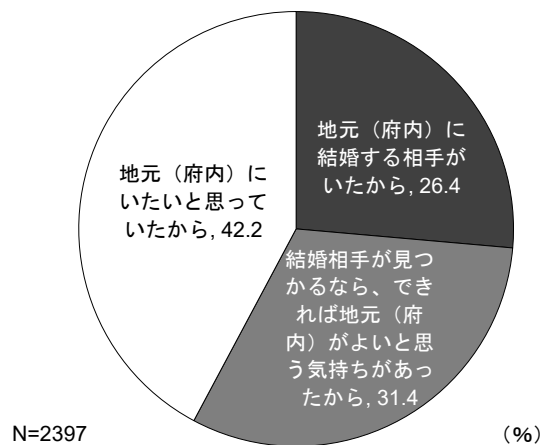


図 3.2.6 結婚後も地元（府内）で暮らしたかった（結婚を機に地元（府内）に戻りたかった）理由（男女別）

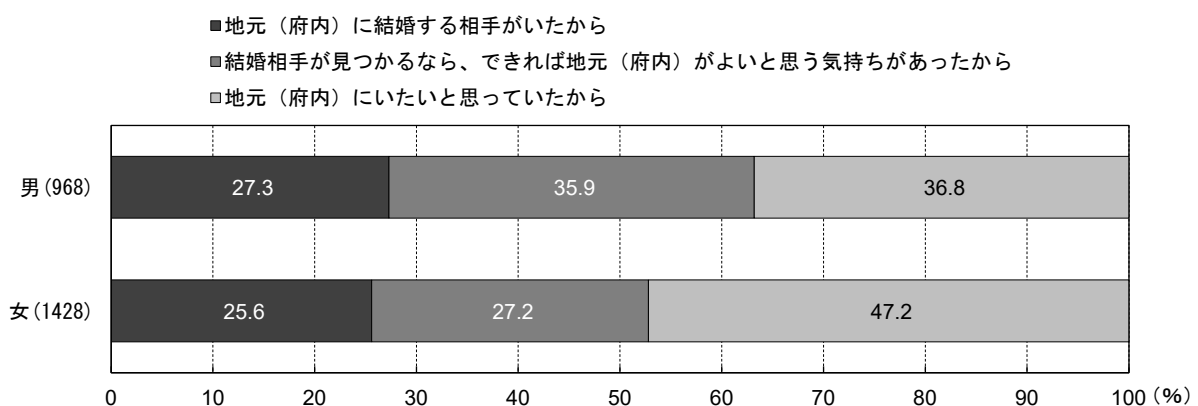


図 3.2.5 で「結婚相手がみつかるなら、できれば地元（府内）がよいと思う気持ちがあったから」「地元（府内）にいたいと思っていたから」と回答した方に、「地元（府内）がよい」という気持ちがあった理由を尋ねた。

府出身者全体では、自分自身に、何かしら地元（府内）にいたいという考えがあったから」が 52%と最も多く、次いで「親の近くにいたいと思ったから」が 52%と多くなっている（図 3.2.7）。

次に男女別にみると、男性は「自分自身に、何かしら地元（府内）にいたいという考えがあったから」が 57%と最も多く、女性は「親の近くにいたいと思ったから」が 60%と最も多くなっており、男女によって「地元（府内）がよい」という気持ちの最たる理由が異なっている。

（図 3.2.8）。

図 3.2.7 「地元（府内）がよい」という気持ちがあった理由（複数）

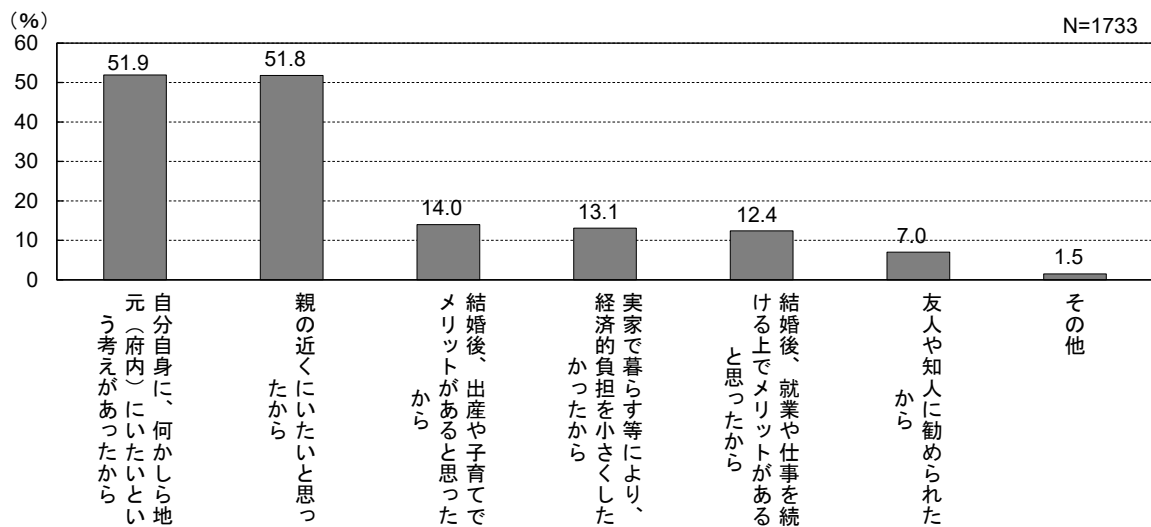


図 3.2.8 「地元（府内）がよい」という気持ちがあった理由（男女別）

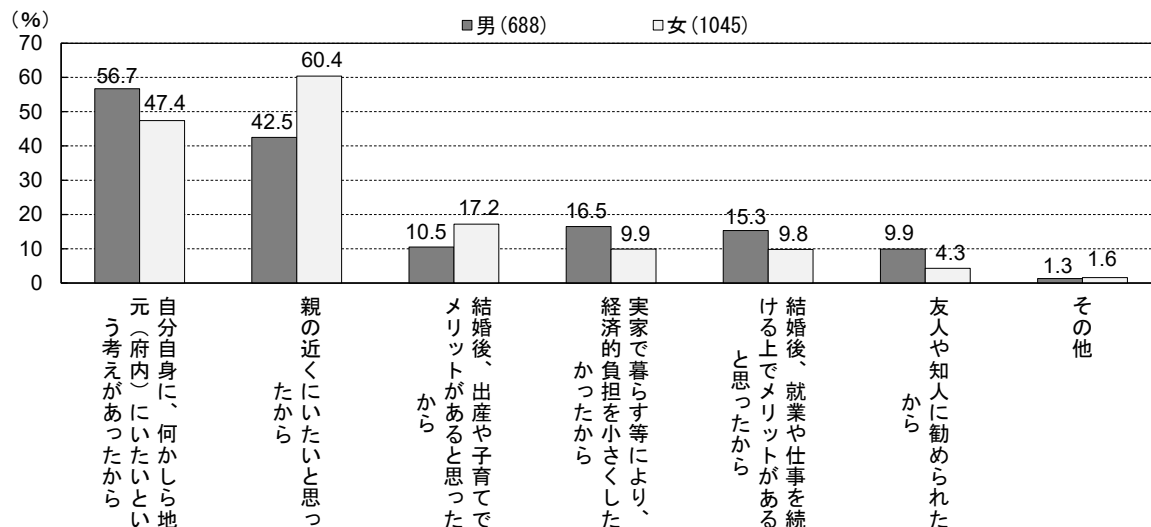


図 3.2.1・図 3.2.3 で「どちらかと言えば、結婚を機に地元（府内）から出たかった」「結婚を機に地元（府内）を出たかった」「地元（府内）を転出しており、結婚を機に地元（府内）に戻りたいとは思っていなかった」と回答した方に、地元外（府外）で結婚したかった（戻りたいと思わなかった）理由を尋ねた。

府出身者全体では、「地元外（府外）に暮らしたい地域があったから」が 34%と最も多く、次いで「結婚相手が暮らしている地域が地元外（府外）であったから」が 25%と多くなっている（図 3.2.9）。

次に男女別にみると、男性は、「地元外（府外）に暮らしたい地域があったから」が 41%と最も多く、女性は結婚相手が暮らしている地域が地元外（府外）であったから」が 31%と最も多くなり、男女によって最たる理由が異なっている（図 3.2.10）。

図 3.2.9 地元外（府外）で結婚したかった（戻りたいと思わなかった）理由（単数）

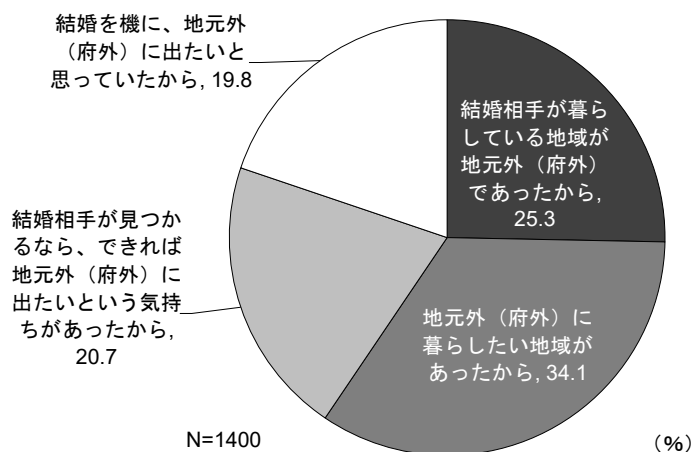


図 3.2.10 地元外（府外）で結婚したかった（戻りたいと思わなかった）理由（男女別）

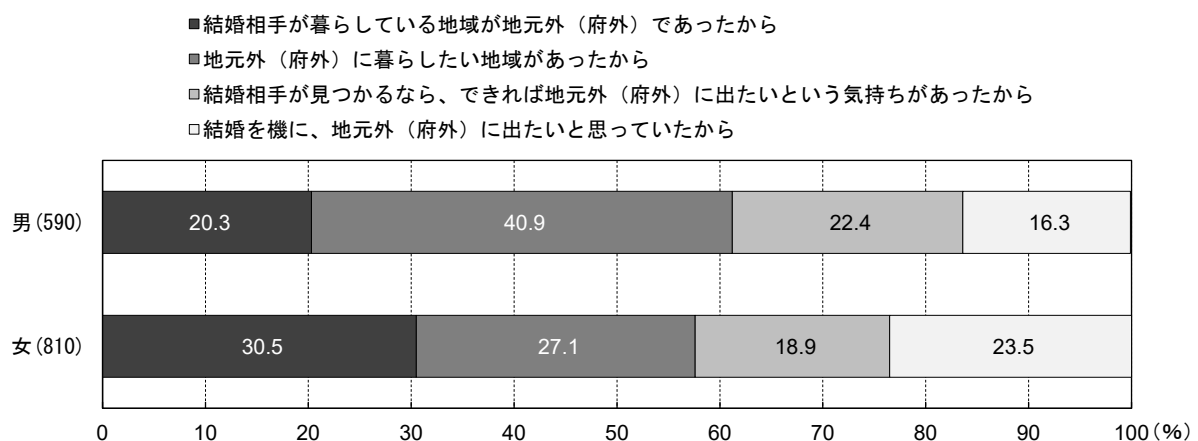


図 3.2.9 で「地元外（府外）に暮らしたい地域があったから」「結婚相手が見つかるなら、できれば地元外（府外）に出たいという気持ちがあったから」「結婚を機に、地元外（府外）に出たいと思っていたから」と回答した方に、「地元外（府外）に出たい」という気持ちがあった理由を尋ねた。

府出身者全体では、「自分自身に、何かしら地元（府内）を離れたい気持ちがあったから」が 35% と最も多く、次いで「親元を離れたいと思ったから」が 34% と多くなっている（図 3.2.11）。

次に男女別にみると、男性は「親元を離れたいと思ったから」が 34% と最も多く、女性は「自分自身に、何かしら地元（府内）を離れたい気持ちがあったから」が 39% と最も多くなっており、男女によって最たる理由が異なっている（図 3.2.12）。

図 3.2.11 「地元外（府外）に出たい」という気持ちがあった理由（複数）

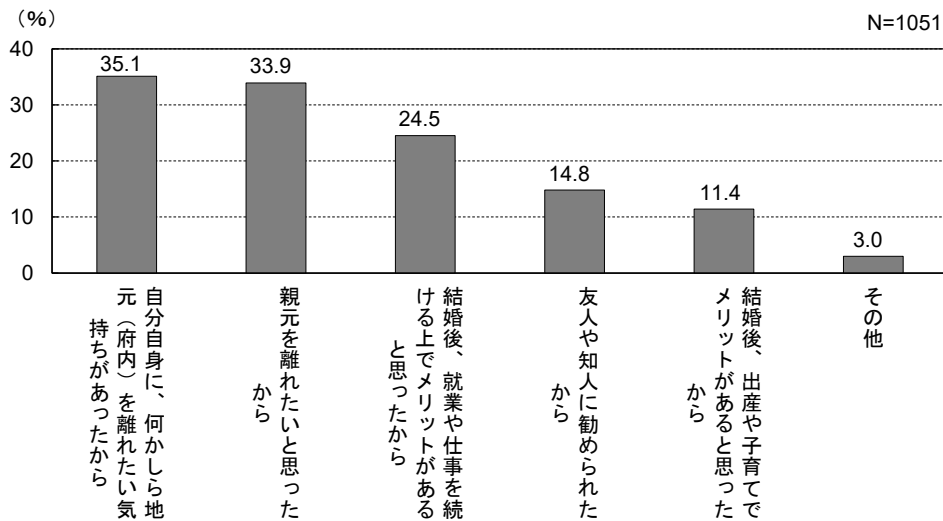
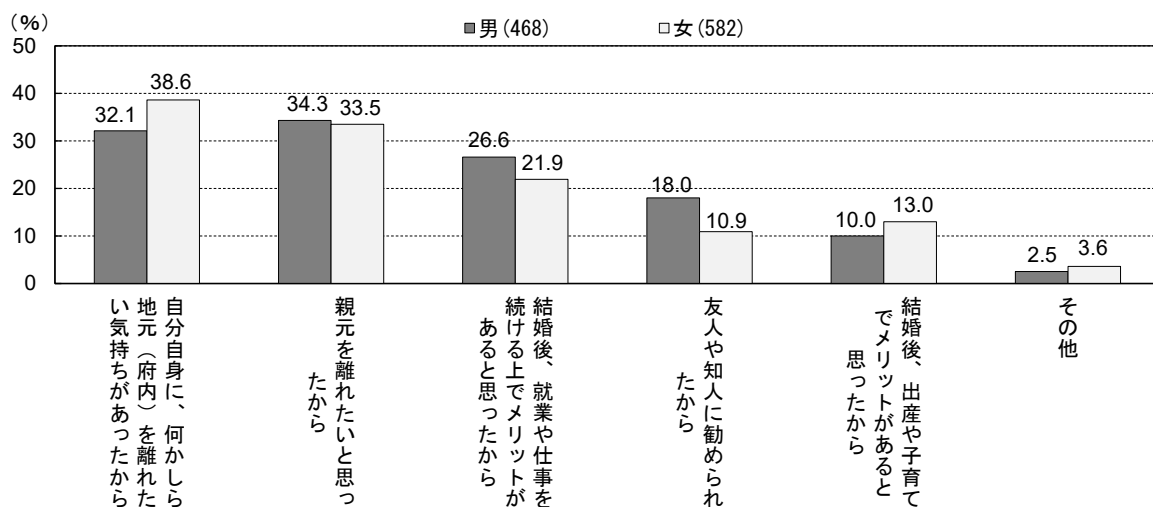


図 3.2.12 「地元外（府外）に出たい」という気持ちがあった理由（男女別）



## (2) 結婚地域の希望の実現

現在結婚している方や結婚経験のある方に、結婚後に暮らし始めた地域が希望どおりであったかを尋ねた。

府出身者全体では、「希望どおり、地元（府内）で暮らし始めた」が41%と最も多くなっている（図3.2.13）。

次に男女別にみると、「希望どおり、地元（府内）で暮らし始めた」が男性は40%、女性は42%と男女とも最も多くなっている（図3.2.14）。

図 3. 2. 13 結婚後に暮らし始めた地域の希望の実現（単数）

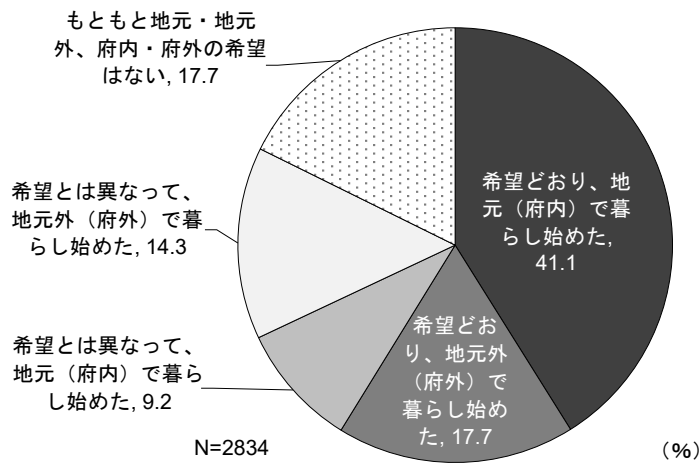
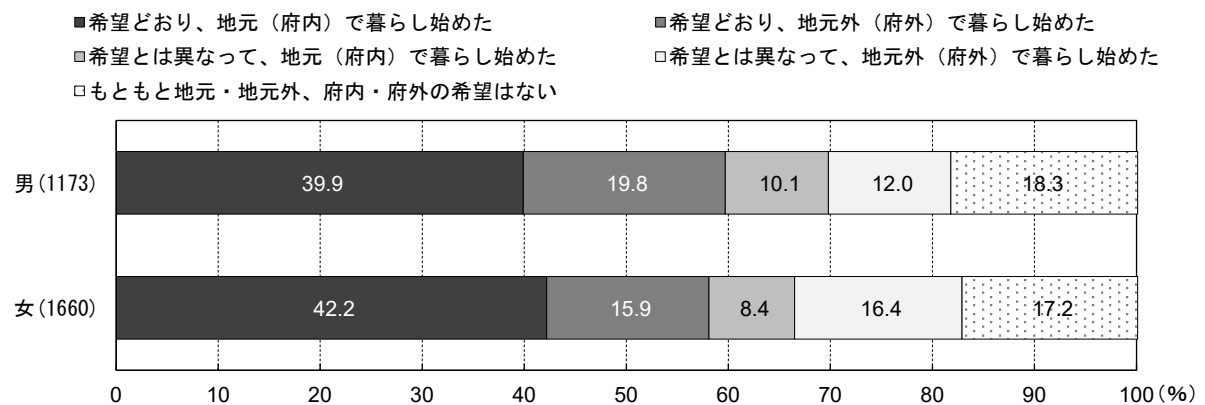


図 3. 2. 14 結婚後に暮らし始めた地域の希望の実現（男女別）

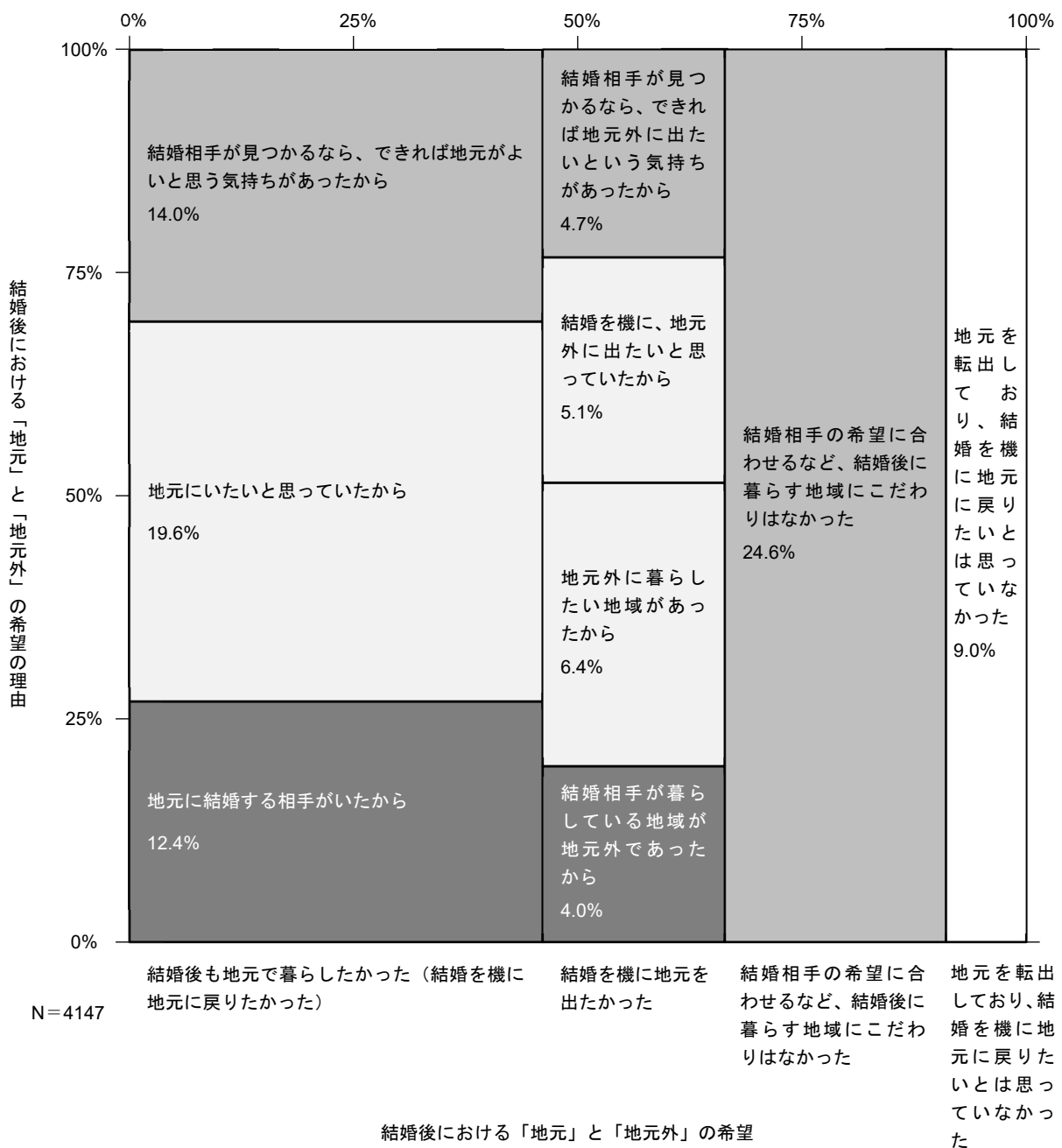


### (3) 結婚後に暮らす地域の希望のセグメント化

図 3.2.15 は、図 3.2.1 の結婚後における「地元」と「地元外」の希望と、図 3.2.5 の結婚後における「地元」と「地元外」の希望の理由の組み合わせたモザイク図※である。図中の四角形（セル）は、図の全体（府出身者の就業地（地元・地元）の希望者）に対するセグメントになっており、図中の数値は、全体を 100 としたとき、それぞれの理由が占める割合である。

「地元をいたいと思っていたから」の面積の大きさが最も大きく、全体の 20%を占めている。（図 3.2.15）。

図 3.2.15 「地元」と「地元外」の希望と理由（府全体・結婚）



#### (4) 地域別の集計

##### ①結婚後に暮らす地域の希望

「結婚後も地元で暮らしたかった（結婚を機に地元に戻りたかった）」「どちらかと言えば、結婚後も地元で暮らしたかった（結婚を機に地元に戻りたかった）」という地元志向（府内を含む）は、地域間で大きな差異はみられない（図 3.2.16、図 3.2.17）。一方、「どちらかと言えば、結婚を機に地元を出たかった」や「地元を転出しており、結婚を機に地元に戻りたいとは思っていなかった」等は、丹後、南丹等で回答が多いなど、地域差がみられる。

図 3.2.16 出身地別にみた結婚後に暮らし始める地域についての希望（地元・地元外）（単数）

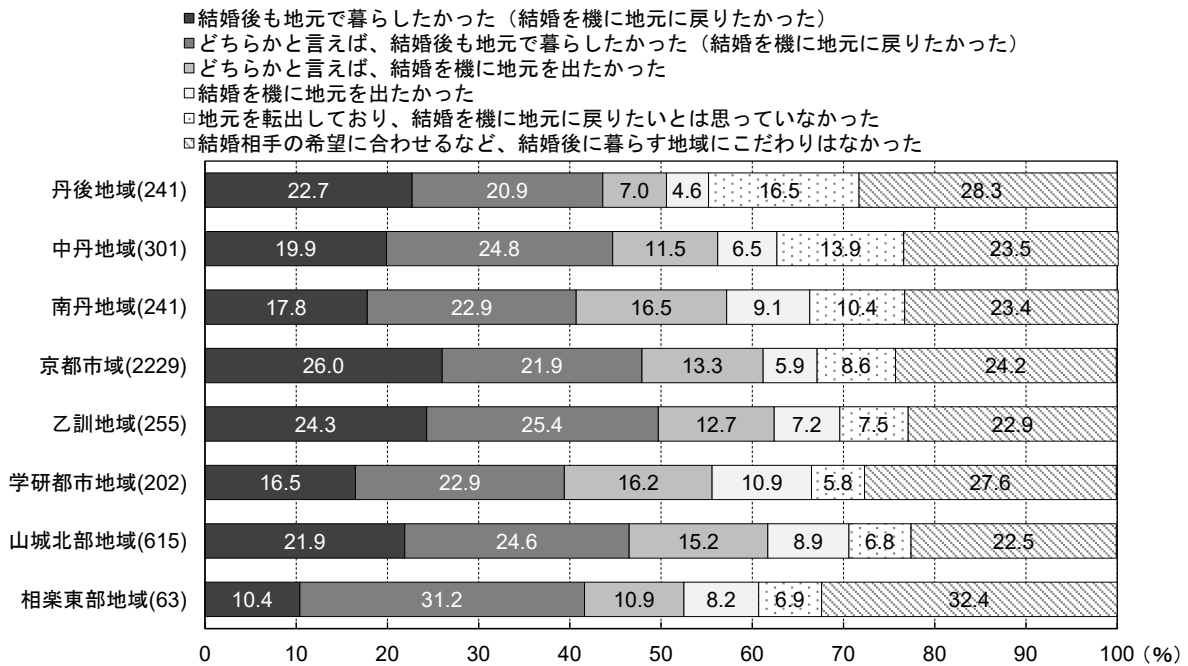
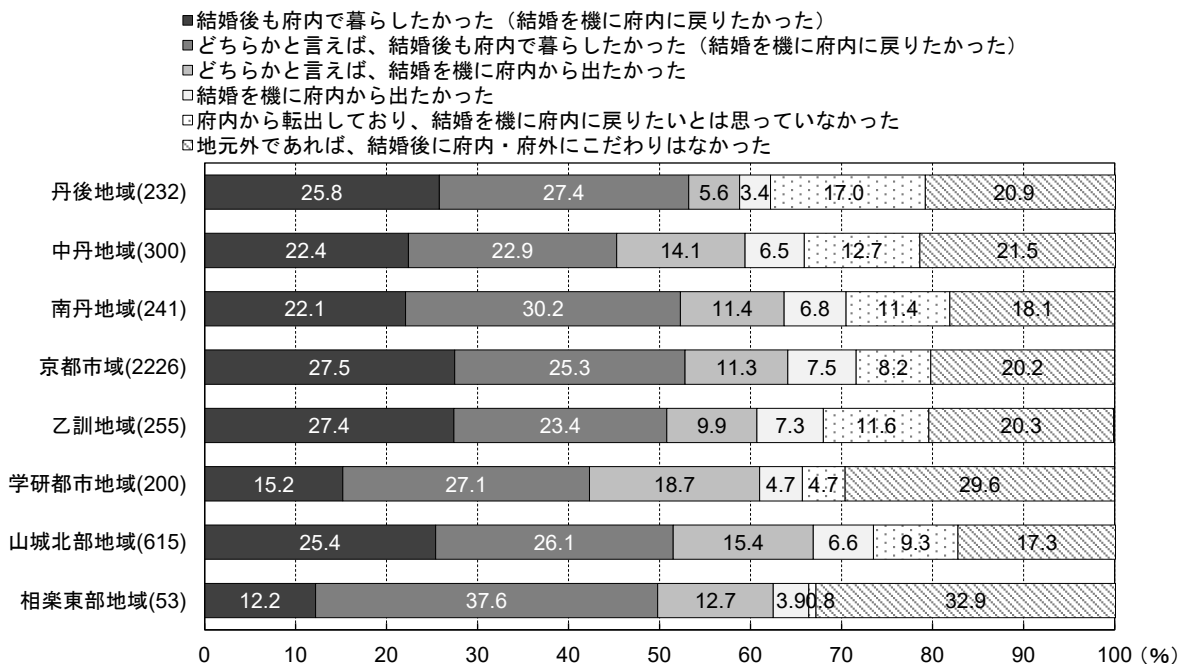


図 3.2.17 出身地別にみた結婚後に暮らし始める地域についての希望（府内・府外）（単数）





## ②結婚後に地元（府内）で暮らしたかった理由

地元（府内）で暮らしたかった理由は、「地元（府内）にいたいと思ったから」が学研都市（52%）、山城北部（46%）、京都市域（44%）等で多くなっている（図 3.2.18）。

「地元（府内）がよい」と思う理由は、南丹で「親の近くにいたいと思ったから」が65%に上るなどの特徴はあるものの、全般には大きな地域差はみられない（表 3.2.1）。

図 3.2.18 出身地別にみた結婚後も地元（府内）で暮らしたかった（結婚を機に地元（府内）に戻りたかった）理由（単数）

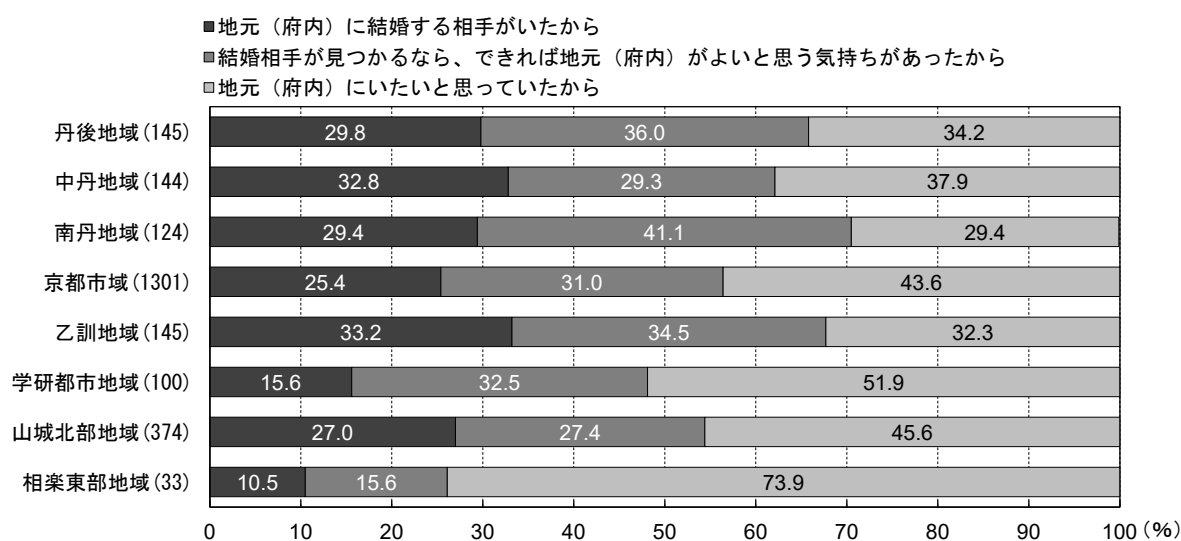


表 3.2.1 出身地別にみた「地元（府内）がよい」という気持ちがあった理由（複数）  
（%）

区分	N	自分自身に、何かしら地元（府内）にいたいという考えがあったから	親の近くにいたいと思ったから	結婚後、出産や子育てでメリットがあると思ったから	実家で暮らす等により、経済的負担を小さくしたかったから	結婚後、就業や仕事を続ける上でメリットがあると思ったから	友人や知人に勧められたから	その他
全体	1709	51.9	51.9	14.0	13.2	12.4	7.0	1.5
丹後	92	52.6	57.8	14.2	12.3	5.8	5.3	1.3
中丹	99	48.8	56.1	9.9	20.2	14.9	10.6	0.6
南丹	88	51.2	65.4	12.3	10.6	15.1	4.6	2.4
京都市域	953	52.7	49.5	13.7	13.9	11.7	6.8	1.2
乙訓	101	43.3	53.5	19.7	10.4	12.8	9.0	4.1
学研都市	81	55.6	51.0	16.9	16.4	18.4	2.6	2.0
山城北部	265	51.4	51.5	14.2	9.2	12.2	8.2	1.6
相楽東部	30	68.5	48.0	17.1	5.9	29.0	12.2	1.8

### ③結婚後に地元外で暮らしたかった理由

丹後（41%）、乙訓（34%）で「結婚相手が暮らしている地域が地元外（府外）であったから」が多くなっている（図 3.2.19）。また、「結婚を機に、地元外（府外）に出たいと思っていたから」は南丹（27%）、山城北部（25%）等が多い。

「地元外（府外）に出たい」という理由は、山城北部で「自分自身に、何かしら地元（府内）を離れたい気持ちがあったから」（45%）が多いなど、図 3.2.19 の結果と一致する特徴がみられるところもある（表 3.2.2）。

図 3.2.19 出身地別にみた地元外（府外）で結婚したかった（戻りたいと思わなかった）理由  
（単数）

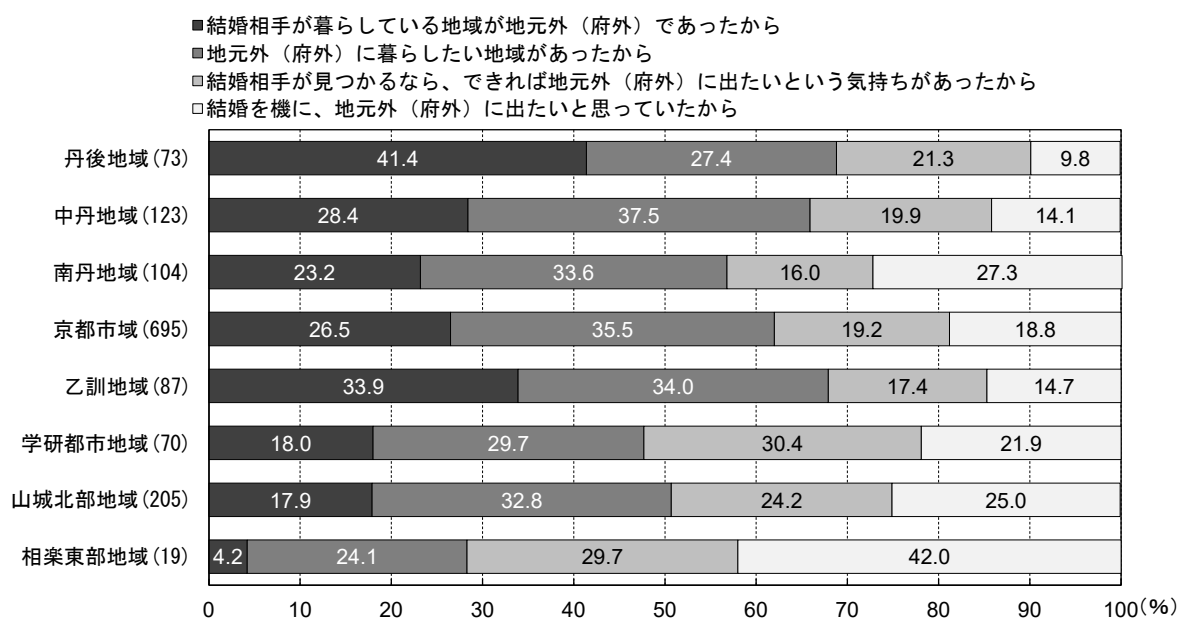


表 3.2.2 出身地別にみた「地元外（府外）に出たい」という気持ちがあった理由（複数）  
（%）

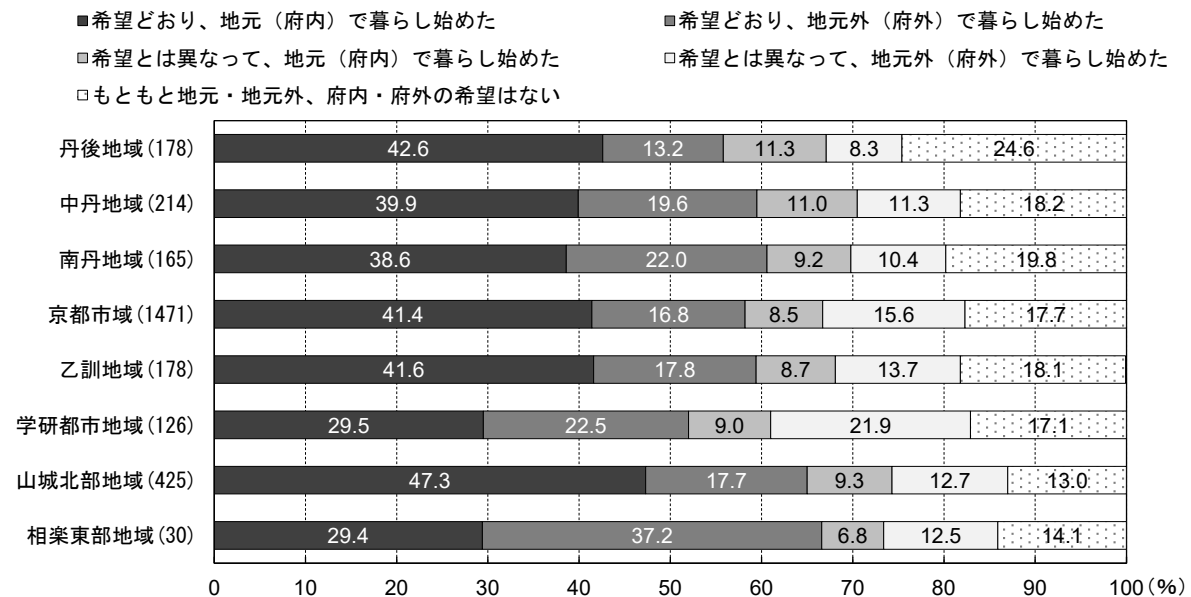
区分	N	自分自身に、何かしら地元（府内）を離れたい気持ちがあったから	親元を離れたいと思ったから	結婚後、就業や仕事を続ける上でメリットがあると思ったから	友人や知人に勧められたから	結婚後、出産や子育てででメリットがあると思ったから	その他
全体	1030	35.0	34.1	24.5	14.8	11.4	2.8
丹後	50	36.4	24.3	34.9	7.4	11.8	5.7
中丹	92	39.5	33.4	24.7	12.9	10.6	2.2
南丹	81	26.6	41.9	22.4	14.2	11.7	4.6
京都市域	519	33.5	33.6	26.0	17.6	10.2	3.1
乙訓	58	31.4	38.7	20.5	17.1	11.5	1.4
学研都市	54	21.4	38.0	24.0	18.7	23.1	-
山城北部	160	45.4	32.5	19.6	8.2	9.9	2.5
相楽東部	16	48.2	19.7	69.9	-	46.4	5.4

#### ④結婚後に暮らす地域の希望の実現

「希望と異なって、地元外（府外）で暮らし始めた」に着目すると、学研都市が 22%であり、際立って多い（図 3.2.20）。

また、「もともと地元・地元外、府内・府外の希望はない」が丹後（25%）等で多くなっている。

図 3.2.20 出身地別にみた結婚後に暮らし始めた地域の希望の実現（単数）



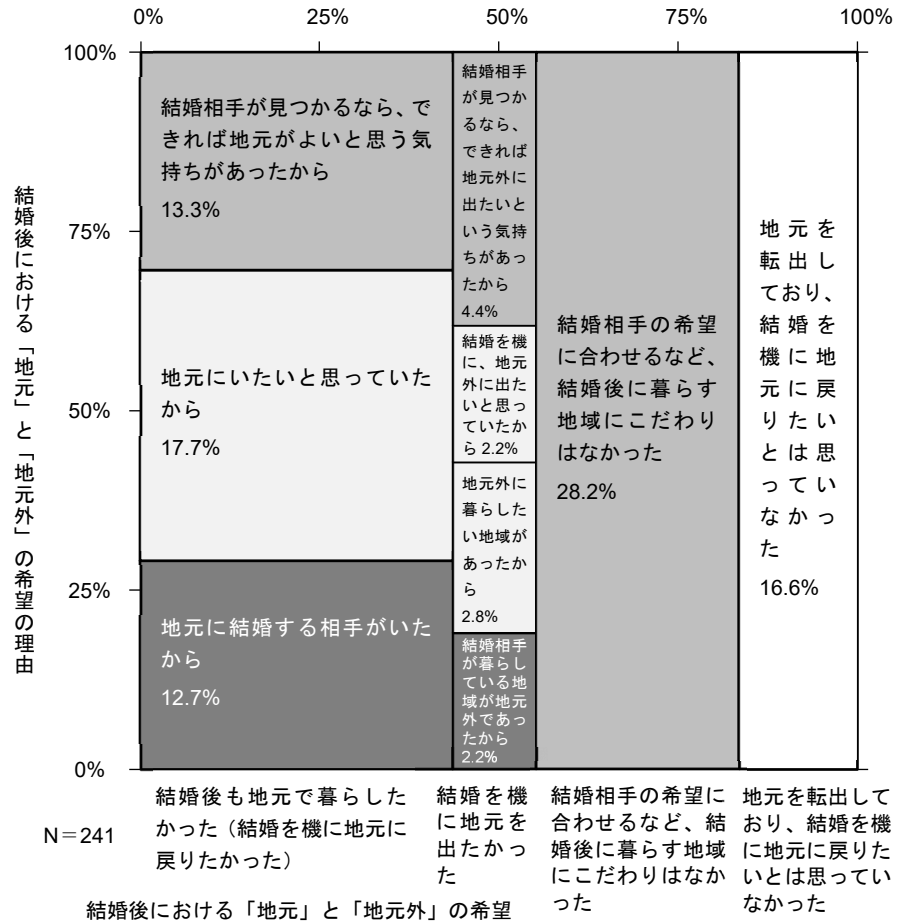
#### ⑤結婚後に暮らす地域の希望のセグメント化

次ページ以降に、結婚後に暮らす地域の希望と、その理由により、各地域出身者のセグメント化を行った（図 3.2.21）。

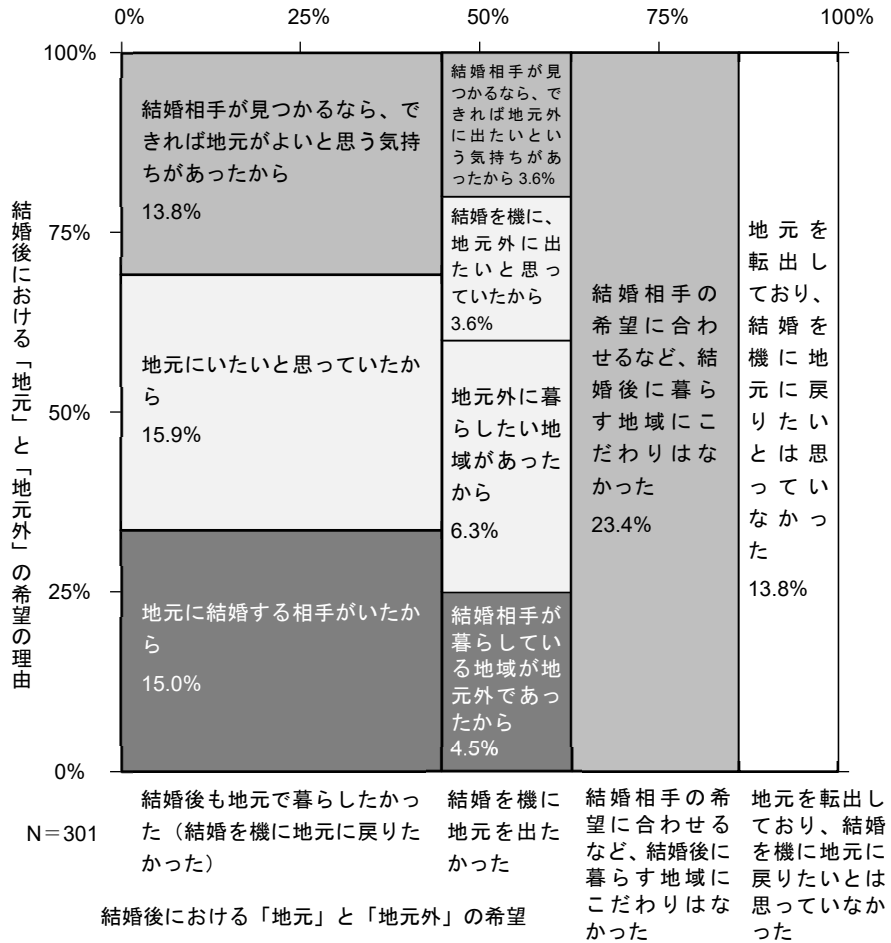
特に、「地元をいたいと思っていたから」や「地元外に出たいと思っていたから」といった希望の他に、「地元で結婚する相手がいたから」で大きな地域差がみられる。地域の出会いの機会の状況等に影響を受けていると考えられる。

図 3.2.21 「地元」と「地元外」の希望と理由（結婚）

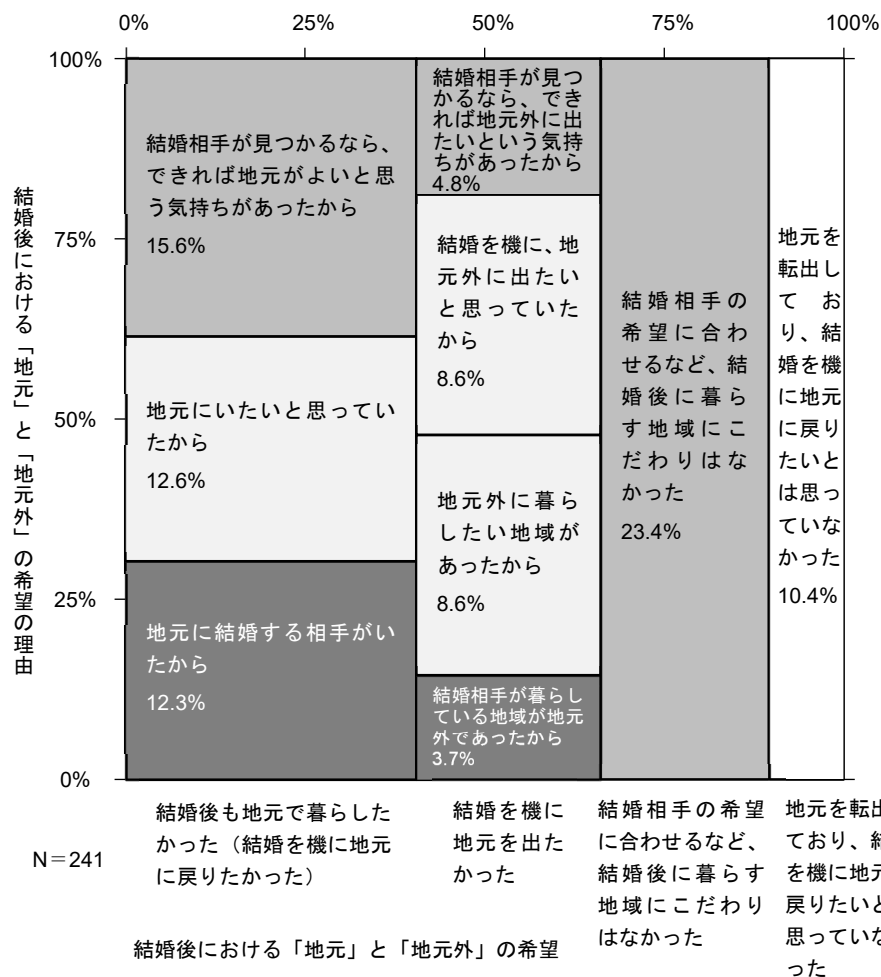
(丹後地域)



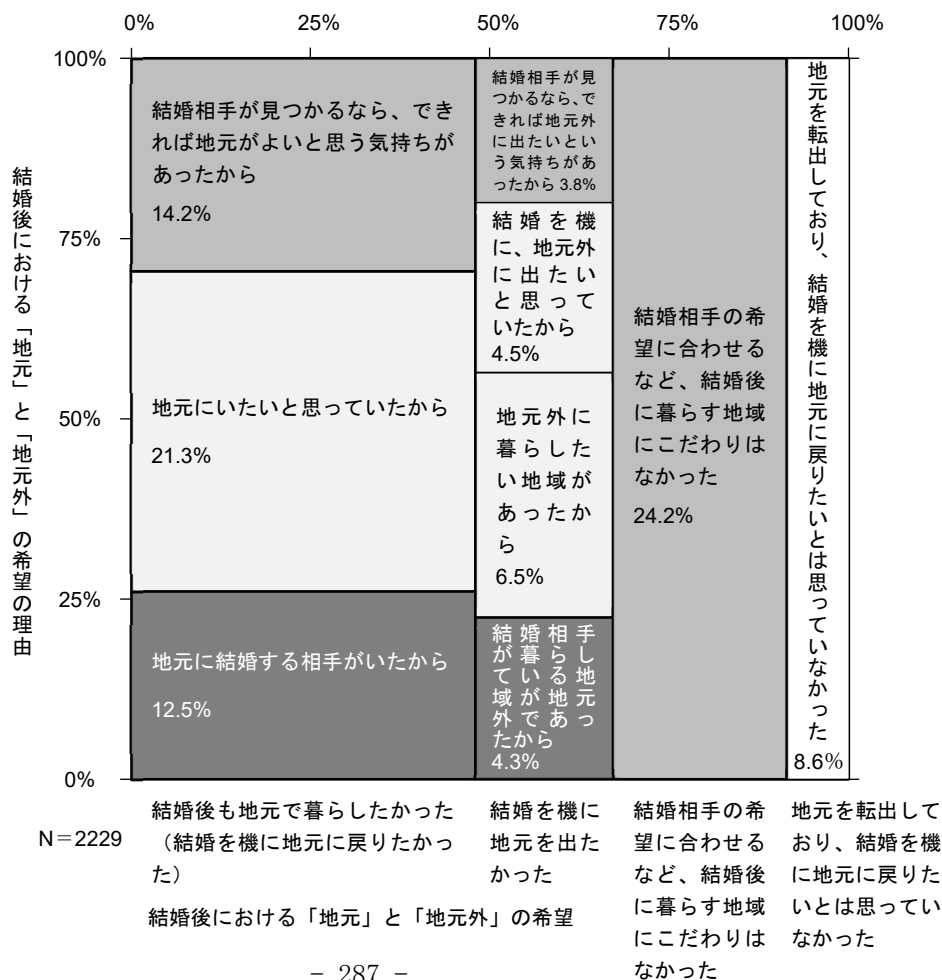
(中丹地域)



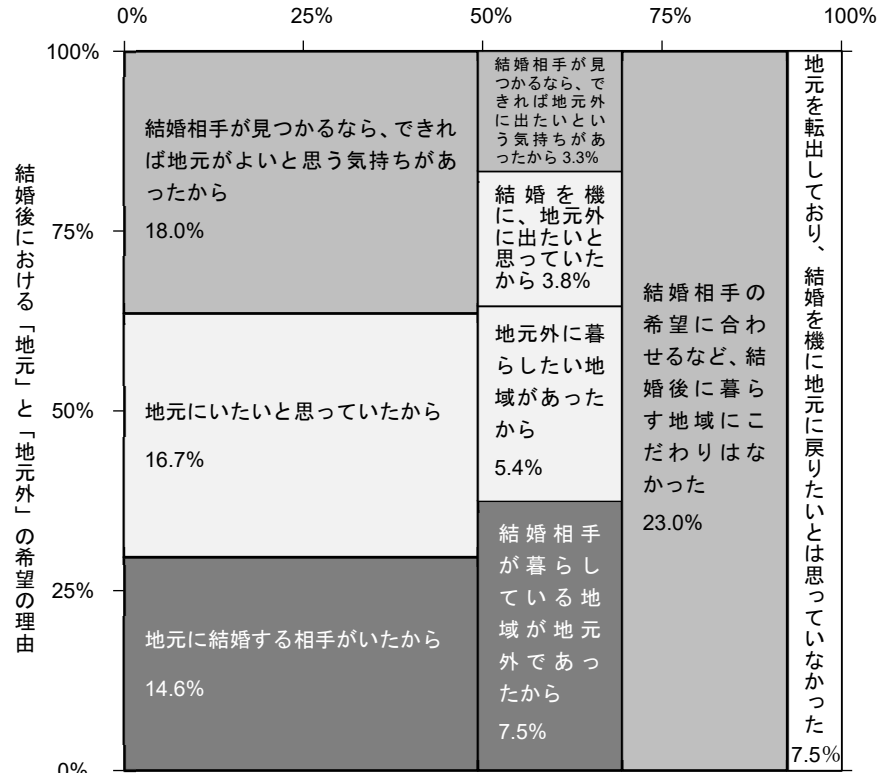
(南丹地域)



(京都市域)



(乙訓地域)



N=255

結婚後も地元で暮らしたかった（結婚を機に地元に戻りたかった）

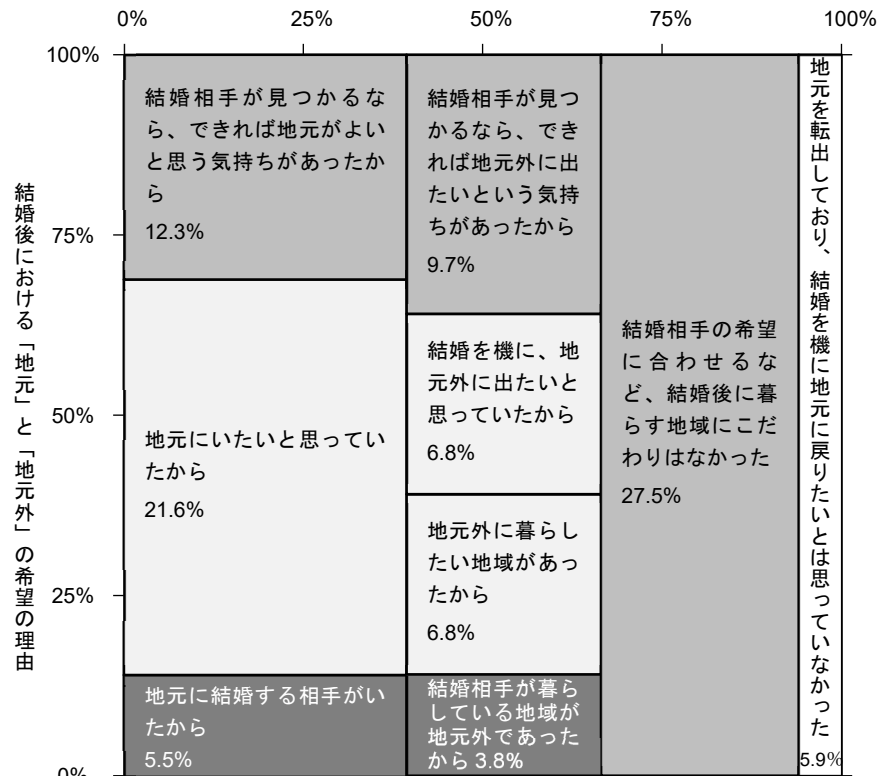
結婚を機に地元を出たかった

結婚相手の希望に合わせるなど、結婚後に暮らす地域にこだわりはなかった

結婚後における「地元」と「地元外」の希望

地元を転出しており、結婚を機に地元に戻りたいとは思っていなかった

(学研都市地域)



N=202

結婚後も地元で暮らしたかった（結婚を機に地元に戻りたかった）

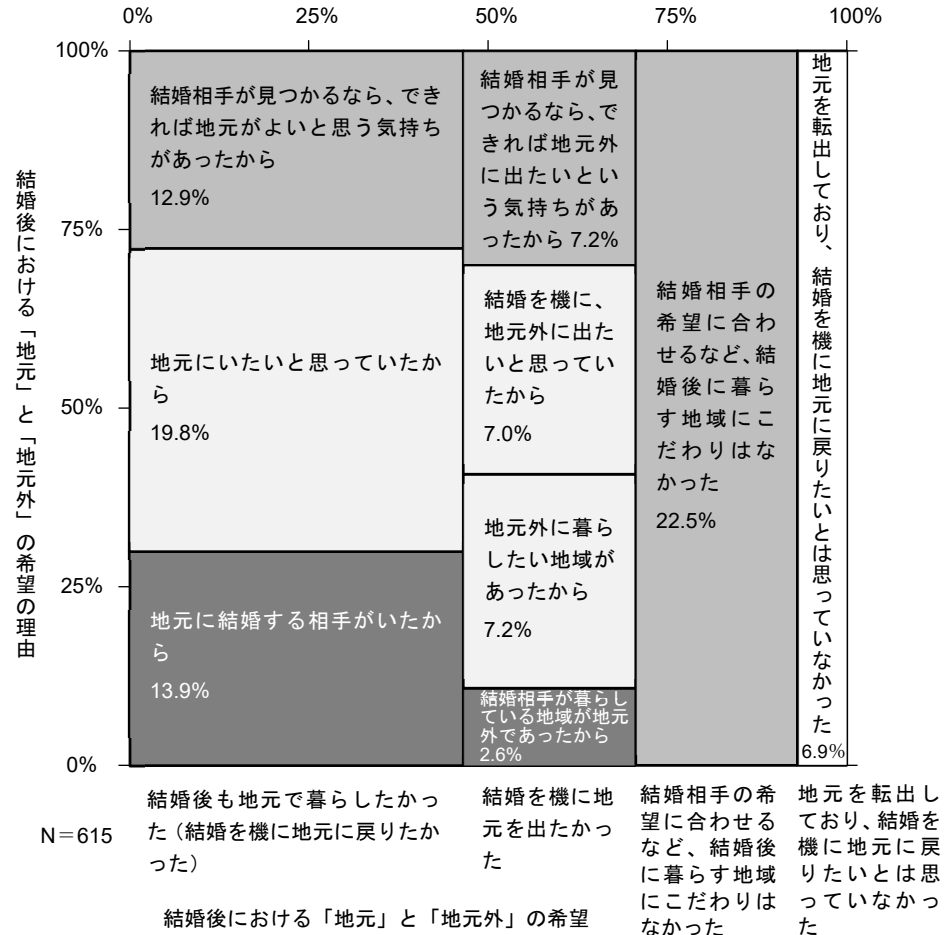
結婚を機に地元を出たかった

結婚相手の希望に合わせるなど、結婚後に暮らす地域にこだわりはなかった

結婚後における「地元」と「地元外」の希望

地元を転出しており、結婚を機に地元に戻りたいとは思っていなかった

(山城北部地域)



(相楽東部地域)

